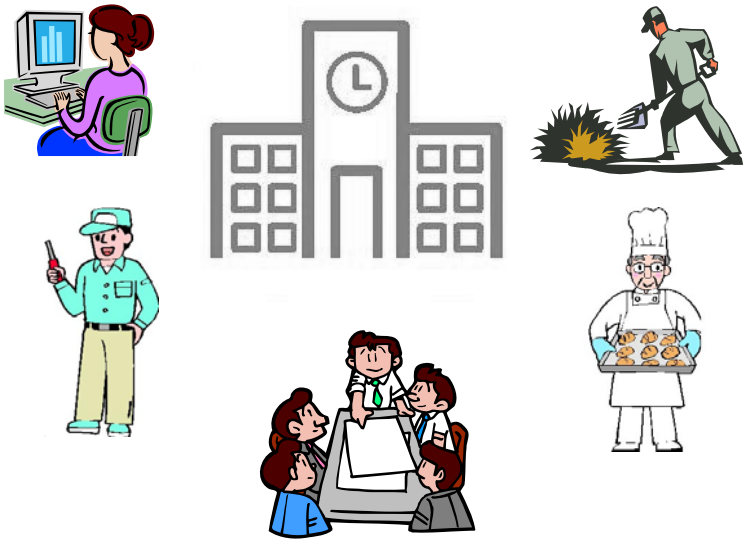
キャリア教育の視点を生かした
進路指導の工夫・改善に関する参考資料

－ 生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために －

【 中学校・高等学校編 】



栃木県総合教育センター

平成１８年３月

はじめに

今日、少子高齢化社会の到来や産業経済の構造的変化、雇用形態の多様化・流動化などを背景として、将来への不透明さが増幅するとともに、就職・進学を問わず、生徒の進路をめぐる環境は大きく変化しています。また、「フリーター」や「ニート」の増加が大きな社会問題となって、若者の社会的な自立に対する支援が国の重要課題に位置付けられるようになっています。

平成16年1月に取りまとめられたキャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議の報告書では、キャリア教育を児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育としてとらえ、学校教育活動全体を通して、児童生徒の発達段階に応じ、組織的、系統的に実践していくことが必要であるとしています。特に、中学校や高等学校においては、小学校段階からの一貫した指導の考え方を理解するとともに、進路指導を中核としてキャリア教育の実践に取り組むことを求めています。また、本県においても、平成18年度から本格的にキャリア教育に取り組むための施策が動き出します。

このようなことから、本県におけるキャリア教育の推進を図ることをねらいとして、現在の教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直し、よりよい実践に向けたプログラムとして再構築するための考え方や具体的な手だてを本冊子にまとめました。校内研修や進路指導の工夫・改善のための参考資料としてご活用いただければ幸いです。

最後に、今年度の調査研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力委員及び指導・助言の方々に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

栃木県総合教育センター所長

佐　藤　信　勝

中高連携を図るキャリア教育の推進
に関する調査研究について

総合教育センターでは、「中高連携を図るキャリア教育の推進に関する調査研究」として、中学校及び高等学校におけるキャリア教育推進の中核となる進路指導の工夫・改善に関する研究に取り組みました。本冊子は以下の委員、指導・助言者の協力を得て作成したものです。

○ 研究協力委員（７名）

宇都宮市立姿川中学校	教諭	小田　春美
栃木市立栃木南中学校	教諭	須藤　幸子
那須塩原市立高林中学校	教諭	山口　新悟
那珂川町立馬頭中学校	教諭	佐藤　明彦
栃木県立壬生高等学校	教諭	和久井　誠一
栃木県立真岡女子高等学校	教諭	田崎　浩二
栃木県立氏家高等学校	教諭	石嶋　啓造

○ 指導・助言者（２名）

上越教育大学　大学院発達臨床コース	助教授	三村　隆男
労働大学校　職務・キャリア分析部門	副主任研究員	下村　英雄

○ 研究委員（９名）

栃木県教育委員会事務局	学校教育課	副主幹	野島　忠夫
栃木県教育委員会事務局	学校教育課	指導主事	青木　徹
栃木県総合教育センター	研修部	指導主事	中山　観
栃木県総合教育センター	研修部	指導主事	植木　淳
栃木県総合教育センター	教育相談部	指導主事	梅澤　圭子
栃木県総合教育センター	研究調査部	副主幹	小森　祥一
栃木県総合教育センター	研究調査部	指導主事	矢口　真一
栃木県総合教育センター	研究調査部	指導主事	吉澤　正光
栃木県総合教育センター	研究調査部	指導主事	小川　浩昭

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆　目　次　◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

Ⅰ　キャリア教育を理解するために　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Q1　キャリア教育とはどのようなものか？　・・・・・・・・・ 3

Q2　キャリア教育で育成を目指す能力や態度とは どのようなものか？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Q3　なぜ、小学校段階からキャリア教育に取り組む 必要があるのか？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

Q4　キャリア教育の視点を生かすことで進路指導 の展開はどのように変わるのか？　・・・・・・・・・・・・ 20

Ⅱ　組織的・体系的なキャリア教育を実践するポイント
－「能力や態度」の育成を軸とした学習プログラムの開発に向けて－　・・・ 25

POINT 1　キャリア教育を教育課程に位置付けて、 学校教育全体で展開する　・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

POINT 2　目標や評価の観点を明確にして系統的な 進路学習を展開する　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

POINT 3　活動のねらいを明確にし、能力や態度に 着目して体験的な活動の成果をとらえる　・・・・・ 39

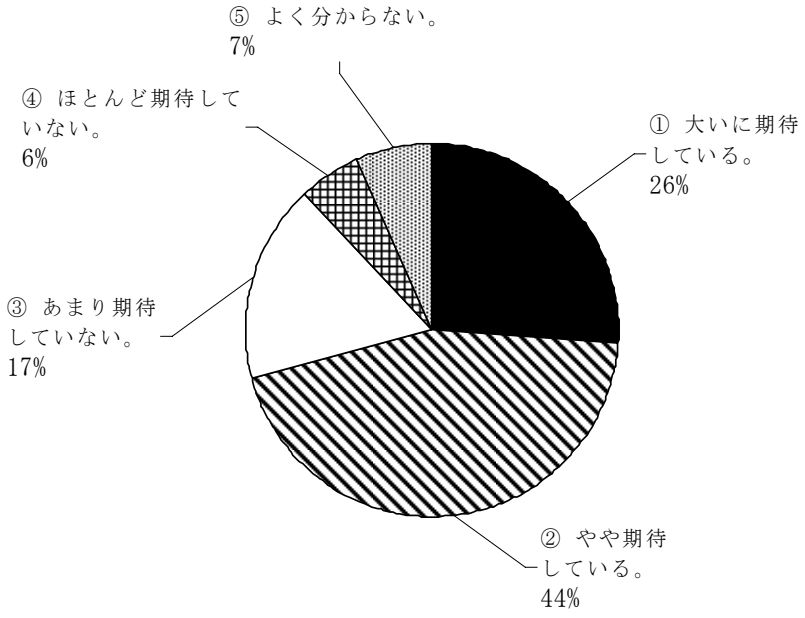
POINT 4　ガイダンスとカウンセリングとをつなぐ　・・・・ 52

Ⅲ　キャリア教育に関する文献や資料　・・・・・・・・・・・・・・ 61

Ⅰ　キャリア教育を理解するために

栃木県総合教育センターが、調査研究の一環として、研究協力委員の所属校の先生に対して行ったアンケート調査（平成 17 年 7 月実施）では、多くの先生方が、キャリア教育の推進に対して、次の図に示すような期待感をもっていることが明らかになりました。

キャリア教育の推進について、どのようにお考えですか。



対象教員数	201 名
中学校	73 名
高　校	128 名

図　キャリア教育に対する期待

しかし、このような期待の声がある一方で、学校現場ではキャリア教育という言葉になじみがなく、何から始めたらよいのか分からないなど、不安や戸惑いの声も数多く聞かれます。

■　キャリア教育に対する先生方の声（不安・疑問・課題）

「あまり期待していない」、「ほとんど期待していない」、「よく分からない」の回答の理由

・キャリア教育という言葉が分かりにくい。
・教員のスキルの向上が必要である。
・生徒も教師も多忙な中で、受け入れるゆとりがあるか疑問である。
・学校教育ができることには限界があるので、期待できるかどうか分からない。
・ベースになる学力に問題があると厳しい。
・心の教育など、先に取り組むべきことがあるのではないか。
・一人一人に個別に形成される勤労観や職業観にどのようにアプローチしたらよいかが課題である。

キャリア教育の推進と聞くと、「また、別な教育をやるのか」、あるいは「さらに新しい活動を始めるのか」という疑問や不安をもちがちですが、決してそのようなことではありません。

本県においても、職場体験やインターンシップをはじめとして、今までにも地域と連携したすぐれた実践が既に数多く重ねられています。また、各教科・領域で行われている様々な学習活動の中には、キャリア教育という視点でも評価すべき実践が多数見られます。

このようなことから、本章では、われわれ一人一人が、現在の取組をベースにして、実践の第一歩をどのように踏み出したらよいか、そのポイントを四つのＱ＆Ａで解説します。なお、それぞれのＱ＆Ａには、あわせて関連する事例を示しています。

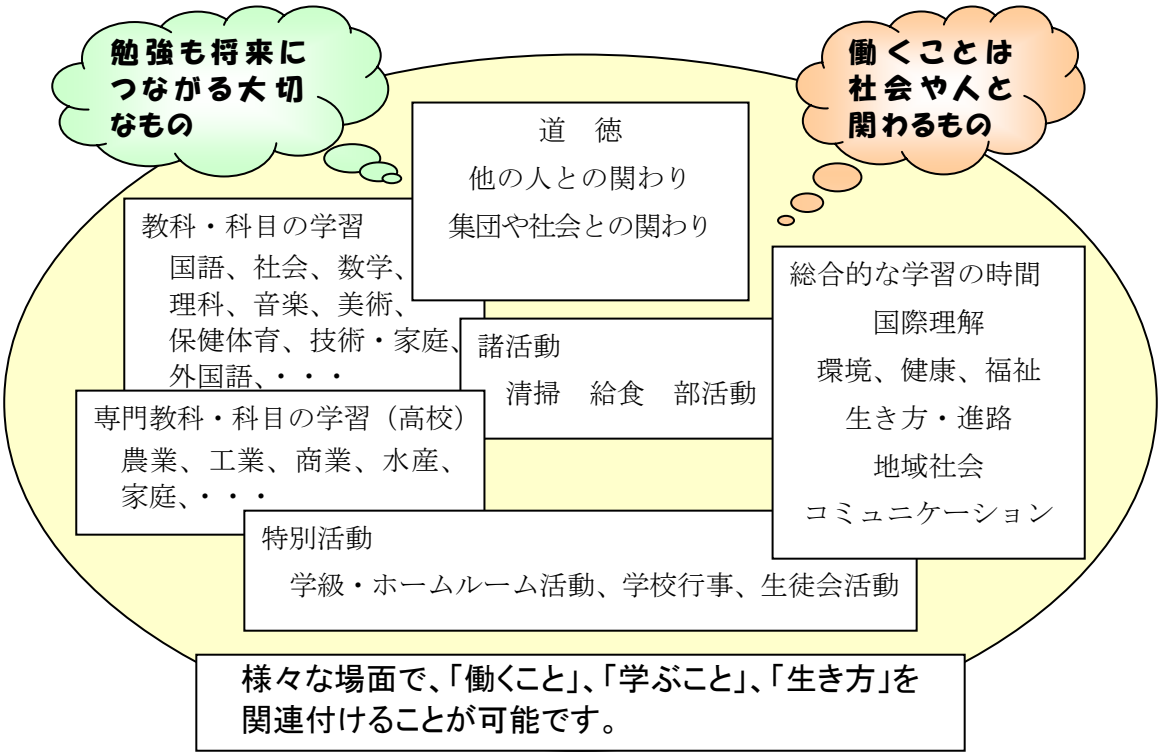
Q1　キャリア教育とはどのようなものか？

A１　**小学校段階から、様々な教育活動を通して、一人一人の児童生徒にふさわしい勤労観や職業観を育成しようとする考え方です。**

■　学校の教育活動全体がキャリア教育の範囲です。中学校や高校では、進路指導や職業教育を中核にして推進します。

■　様々な教育活動を通して、勤労観や職業観の形成の基礎となる具体的な意欲や態度、能力を育成しようとする視点をもつことが重視されます。

日々の教育活動には、児童生徒に「働くこと」、「学ぶこと」、「生き方」を関連付けて意識させる場面がたくさんあります。学級の係活動や学校の児童会・生徒会の活動にどのように関わるか、あるいは、授業にどのように臨むかといったことまで、キャリア教育の視点でそれらの意義を再確認することが大切です。



事 例 紹 介

ここでは、キャリア教育の視点から日々の教育活動の意義を再確認するために、三つの事例を紹介します。

事例１〔中学校〕生徒会の福祉活動の一環としてボランティア体験を実施

この中学校では、生徒会の福祉委員と希望者が、地域の高齢者福祉施設を訪問して、体験学習を行っています。

■ この活動のねらいは？

・この体験を通して、他者理解と同時に自己理解が深まると考えられます。
・家庭や地域の一員として、社会的な役割を果たそうとする態度の育成が期待できます。
・自分たちにどのようなボランティアができるかを考えたり、アイディアを出したり、工夫して取り組んだりするなど、主体的に課題に取り組もうとする意欲や態度の育成が期待できます。

■ この活動を通して育成された能力や態度は？

体験的な活動からは、指導者側が意図しない成果が得られることも多々あります。次の、「参加した生徒の感想からの抜粋」のように、生徒は福祉施設などで働く人々から、多くのことを学んでいることがうかがえます。この生徒以外にも、体験を通して勤労の意義や働く人々の様々な思いに気付いたり、自己の職業に対する適性に気付いたり、働くことの意義や職業の社会的な役割などに対する理解が深まったりするなど、様々な生徒の反応を読みとることができました。

［ 参加した生徒の感想からの抜粋 ］

・（耳の不自由な方との筆談を通して）私は「ありがとう」という言葉をこんなにうれしく思えたのは本当に久しぶりでした。この何気ない言葉がこんなにもうれしい気持ちにさせてくれることを気付かせてくださった方にとても感謝しています。
・（ヘルパーの方の仕事ぶりから）私たちの気付かないところにも気をつかって、しかも素早く対応できるところはさすが経験者だなと感心しました。
・（福祉の道に興味をもって参加して）ヘルパーの皆さんは、きっとつらいことも悲しいこともたくさんあるのだろうが、お年寄りといるときはいつも笑顔で接している。これも老人ホームでのマナーなのかもしれないと思いました。
・（仕事のよろこびを教えられて）あるヘルパーの方が、私たちに向かって「おばあちゃんかわいいでしょう。この笑顔にだまされちゃうのよね。」とうれしそうに話していました。私もこの笑顔にかえられるものはないと思い、心の底からうれしさがこみ上げてきました。

高齢者との関わりから気付くことの他に、働く人々との関わりを通して気付くことについても、生徒の感想の中に数多く見られました。

■ 今後の展開は？

地域の人々とのふれ合い活動を軸に、中学生として自分たちができる活動を考えて実践できる場や機会をつくっていきます。

事例２〔中学校〕給食当番の分担を長期間固定させた取組

この中学校のある学級では、従来は週ごとに交代していた給食当番を、生徒会や学級の委員と同じように、希望者を募って長期間担当させました。

■ この活動のねらいは？

学校や学級などの集団の中には様々な役割があり、それらを誰かが分担しなければなりません。全員に同じ役割を経験させて、責任を果たす意義を感じさせることも必要ですが、生徒一人一人の意欲を生かして集団を活性化することも大切です。必ずしも、生徒の希望だけで役割分担を調整することはできませんが、この事例では、前年どおりの決め方にこだわらず、日常生活における役割の意義をとらえ直すきっかけとしています。

■ この活動を通して育成された能力や態度は？

働くことには、お金を得ることだけでなく、集団や社会に対して貢献したり、ある役割を果たしたりする側面もあります。係活動を長期間担当することで、役割を遂行するためのスキルが高まり、集団の仲間から信頼されるようになります。また、自ら進んで担当した係活動を通して手応えを感じることができると、意欲がさらに高まって、自らの役割の重要性を理解しようとする態度が育まれると考えられます。

事例３〔高等学校〕コース選択のための模擬授業

この高校では、次年度の希望コースで実際にどのような学習をするのか体験するため、各科目の模擬授業を受講させる取組を行っています。

・学習科目のガイダンス、模擬授業（本校教員）・コース別講演会（外部講師）

■ この活動のねらいは？

多くの普通科や総合学科では、２年次以降のコース選択がその後の進路選択に大きく関わります。この事例は、選択しようとするコースや科目で学ぶ内容を実際に体験させるねらいがあります。

■ この活動を通して育成された能力や態度は？

将来の生き方と現在学んでいること、さらにこれから学ぼうとすることを、生徒が具体的に関連付けることができる体験となっています。将来設計をしたり、よりよい選択をしたりする能力や態度の育成が期待できます。

事例から学ぶこと

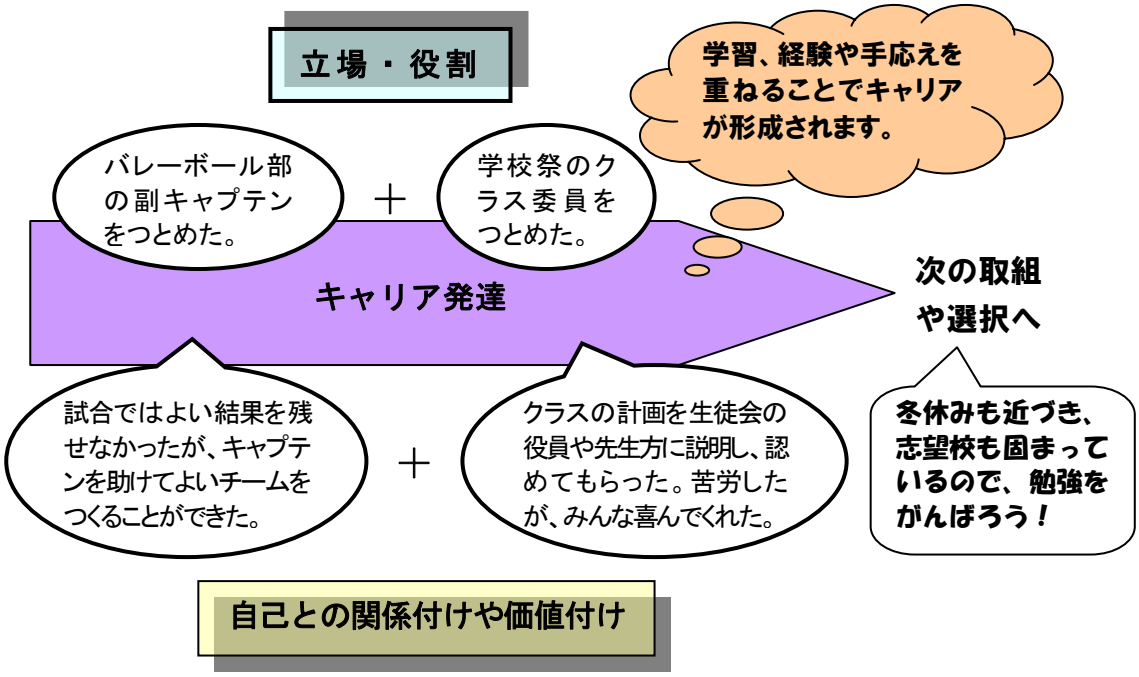
キャリア教育では、生き方や進路選択・決定に関わる能力や態度を幅広くとらえ、様々な機会を生かしてそれらを着実に育成していこうとすることが大切です。

解説１　「キャリア」のとらえ方

キャリア教育では、個々人が成長する過程で経験する立場や役割、周囲のものごとや人間関係に着目します。「キャリア」とは、個々人がこれまでに累積してきた経験やものの見方、考え方などの全体を指すものです。

キャリアは、自分の生き方や進路を決定しようとするときのよりどころとなる大切なものであり、職業観や勤労観の基盤となるものと考えられます。

イメージ図　キャリア発達のプロセス



◆　キャリア教育はキャリア発達を促すもの　◆

キャリアは、一人一人が成長し、様々な経験を重ねる中で変化していくものです。また、望ましい勤労観や職業観を育成するためには、集団の中で他者と関わりながら、それぞれにふさわしいキャリアが形成されていくことが必要です。小中高の段階は、学ぶ基礎をつくる時期であるとともに、キャリア発達の基盤づくりの大切な時期と考えられます。

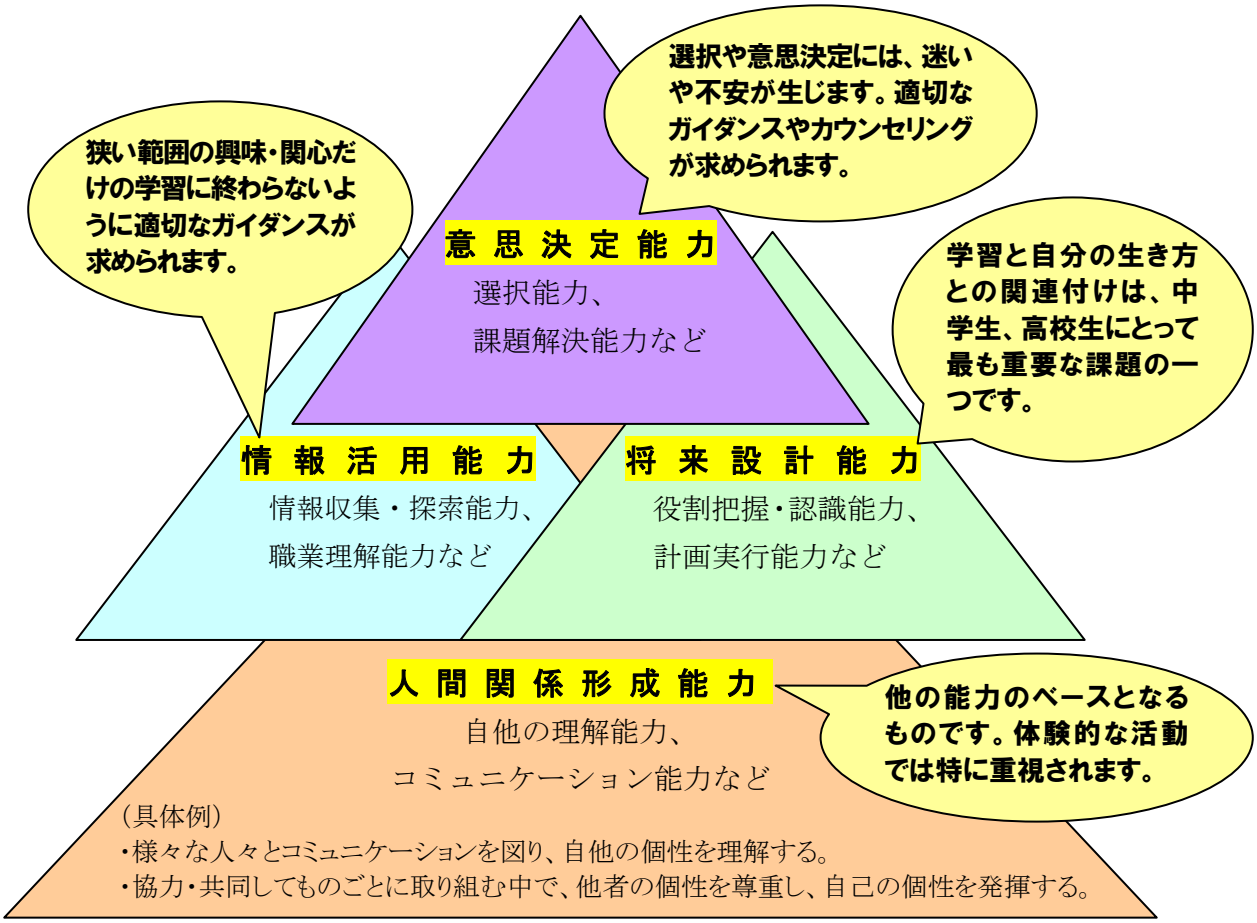
Q2　キャリア教育で育成を目指す能力や態度とはどのようなものか？

Ａ２　**代表的な例として、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」などがあります。**

■ 実際の活動の場面では、これらの能力を目標や評価の観点として用います。

■ 育成を目指す能力や態度は、具体的に記述する必要があります。その際には、先行研究などの例を参考にするとともに、自校の児童生徒の活動の様子や自己評価の結果をもとに作成します。

イメージ図　キャリア教育で育成を目指す能力や態度



※　国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（平成 14 年 11 月）」に、詳細な具体例が示されています。（p.23、24 の表）

事 例 紹 介

ここでは、キャリア教育推進の柱の一つとなる職場体験を事例として取り上げて、育成を目指す能力や態度を、実践にどのように位置付けるかということについて説明します。

事例４〔中学校〕育成を目指す能力や態度を目標や評価の観点として活用

この中学校では、職場体験を通して育成を目指す能力や態度を明確にし、生徒に活動させています。また、自己評価の観点も明確にしています。

■ この活動で生徒に期待することは？

体験的な活動は、抽象的な目標のまま実践しがちです。また、前後の活動との関連が希薄で一過性の体験に終わってしまうなどの問題点が、これまでも指摘されています。ねらいや評価の観点を明確にすることで、全員に気付かせたい点がはっきりするとともに、各自が活動を通して気付いたり、理解したりすることで内容の深まりが期待できます。

○　従来の進路指導の目標

・・・勤労の喜び、厳しさ、すばらしさを実感し、幅広い勤労観や職業観を形成する。」

（「感想」から一部抜粋）

◆　貴重な体験ができて、いい勉強になりました。

◆　製品をうまくつくることができてよかった。

「感想」という項目でも、様々な気付きや発見が期待できますが、必ずしも学んで欲しい観点に目が向かないこともあります。

○　キャリア教育の視点で明らかにした「育成を目指す能力や態度」

人間関係形成能力の活用とその向上を目指す。

（具体例）

・働く人々とのコミュニケーションの充実を図る。

・働く人々がそれぞれの立場で、どのようにチームを組んで、互いに支え合って仕事をしているか理解する。

人間関係形成能力の観点から項目を設定することで、全員が振り返れるようにしています。

（「職場のチームワークや人間関係などについて気付いたこと」から一部抜粋）

◆　機械を扱う仕事に興味をもっていましたが、作業の前のミーティングがとても重要だと感じました。

◆　病院は、お医者さんや看護婦さんだけでは成り立たないということをいままで考えていませんでした。

事例から学ぶこと

発達段階に応じた勤労観や職業観を身に付けさせるためには、育成を目指す能力や態度の重点化を図るとともに、それらに対応するように活動のまとめの課題や自己評価の項目を設定することが大切です。漠然と感想を書かせるだけでなく、具体的な項目を示して書かせることも必要です。

解説２　キャリア発達に関わる能力や態度（中学生・高校生の意識から）

若者の職業人としての基礎的資質・能力の低下など、キャリア発達の遅れを指摘する声はこれまでになく大きく、キャリア教育が社会から求められる背景ともなっています。

次の調査の質問は、将来の進路選択や生き方に関わる様々な事柄に対して、得意であるか、苦手であるかを聞いたものです。各項目は、キャリア教育において育成を目指す能力や態度と対応させています。

この調査結果から、キャリア発達に関わる能力や態度の面について、中学生や高校生の意識の特徴を読み取ることができます。

【 質　問 】

あなたは、下の①から⑩の項目について、得意ですか、それとも苦手ですか。それぞれの項目について、次の４、３、２、１のうちから最もあてはまるものを選び、番号に〇をつけてください。

４　得意である　　３　どちらかというと得意である
２　どちらかというと苦手である　　１　苦手である

［ 項　目 ］

① 新しい環境や人間関係に慣れること
② リーダーとしてグループをまとめること
③ リーダーを助けたり、グループの仲間と協力したりすること
④ 身近な人々の仕事を理解すること
⑤ 進路に関する情報や資料を集めること
⑥ 勉強、係活動、部活動などの内容に、おもしろさ、やりがいを見付けること
⑦ 自分が将来どんな仕事につきたいか考えること
⑧ 自分がどのような仕事に向いているか理解すること
⑨ 希望の進路を実現するため、学習計画を立てたり、目標をもって生活したりすること
⑩ １０年後や２０年後の自分の人生や生き方を考えること

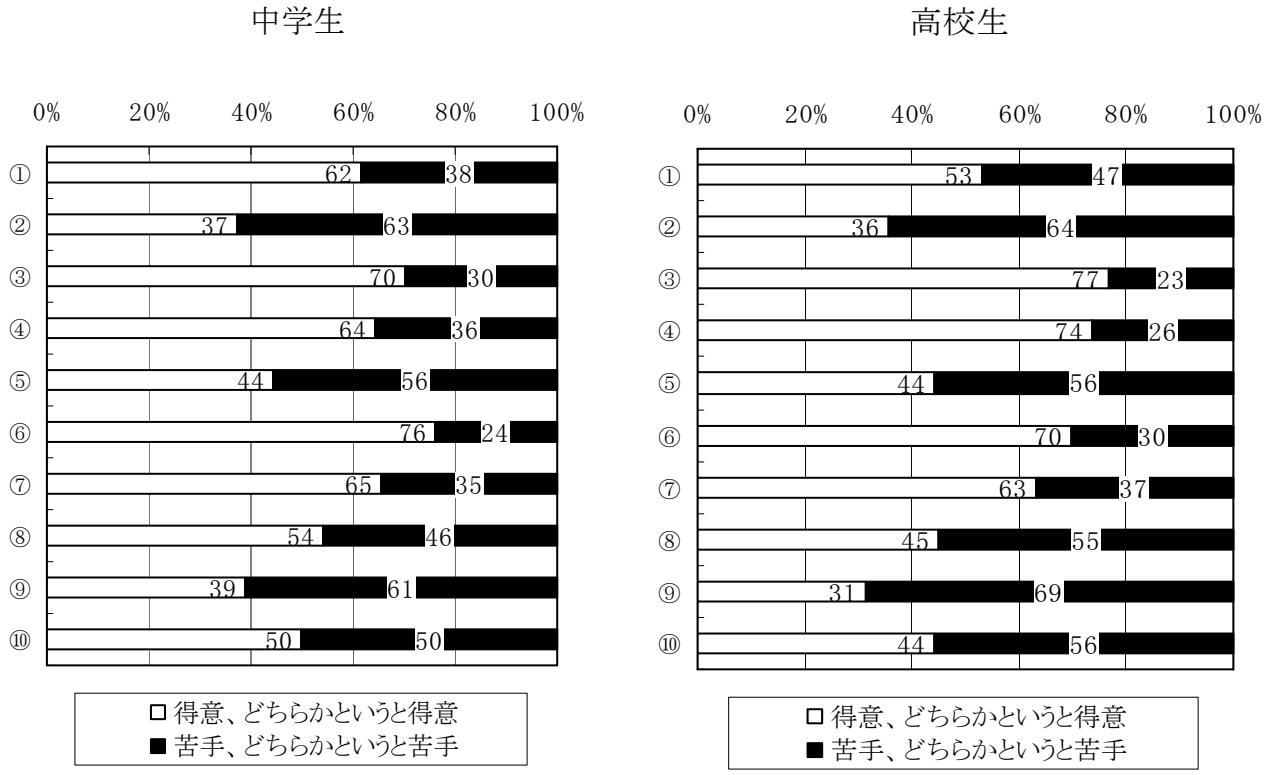


図　将来の進路や生き方などの事柄に対する「得意」、「苦手」の度合い

進路に関する調査（平成 17 年 7 月、栃木県総合教育センター）より
中学生 899 名（男 447、女 452）、高校生 869 名（男 201、女 668）、合計 1768 名

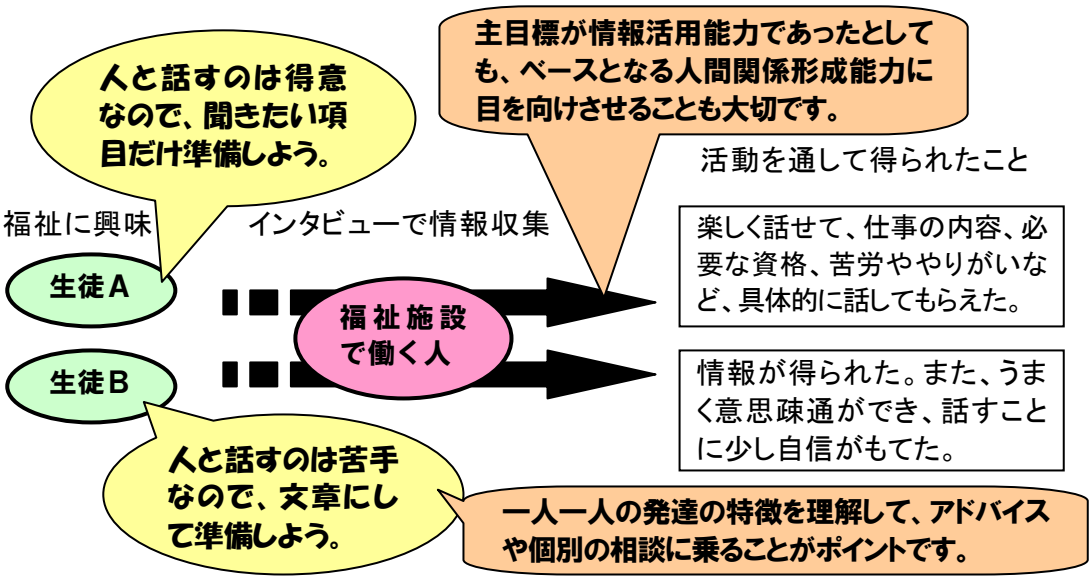
◆ 調査結果から分かること ◆

「⑥勉強、係活動、部活動などの内容に、おもしろさ、やりがいを見付けること」や、「⑦自分が将来どんな仕事につきたいか考えること」などに対しては、中学生、高校生とも、「得意」あるいは「どちらかというと得意」と感じている生徒の割合が高い傾向が見られます。一方、「② リーダーとしてグループをまとめること」、「⑤ 進路に関する情報や資料を集めること」、「⑨ 希望の進路を実現するため、学習計画を立てたり、目標をもって生活したりすること」などのように、積極的あるいは主体的に取り組むことは、「苦手」あるいは「どちらかというと苦手」と感じている生徒の割合が高くなっています。また、高校生では、「⑧ 自分がどのような仕事に向いているか理解すること」をどちらかというと苦手と感じる生徒が多く、自他の理解の点でも課題があることがうかがえます。

解説３　キャリア教育が育成を目指す能力や態度のとらえ方

キャリア教育の実践では、活動のねらいを明確にするため、いくつかの能力に力点を置いて指導する必要があります。ただし、人の能力の発達は複合的なものであり、一人一人の児童生徒の中では、各能力は相互に関連しながら育つという考え方に立って指導・支援にあたることが大切です。

イメージ図　働く人に対するインタビューを通して能力や態度が育成される様子



体験活動を通して人間関係形成能力に自信を付けるとともに、情報活用能力も高めている例

◆　人間関係形成能力は様々な能力や態度の育成に関わるもの　◆

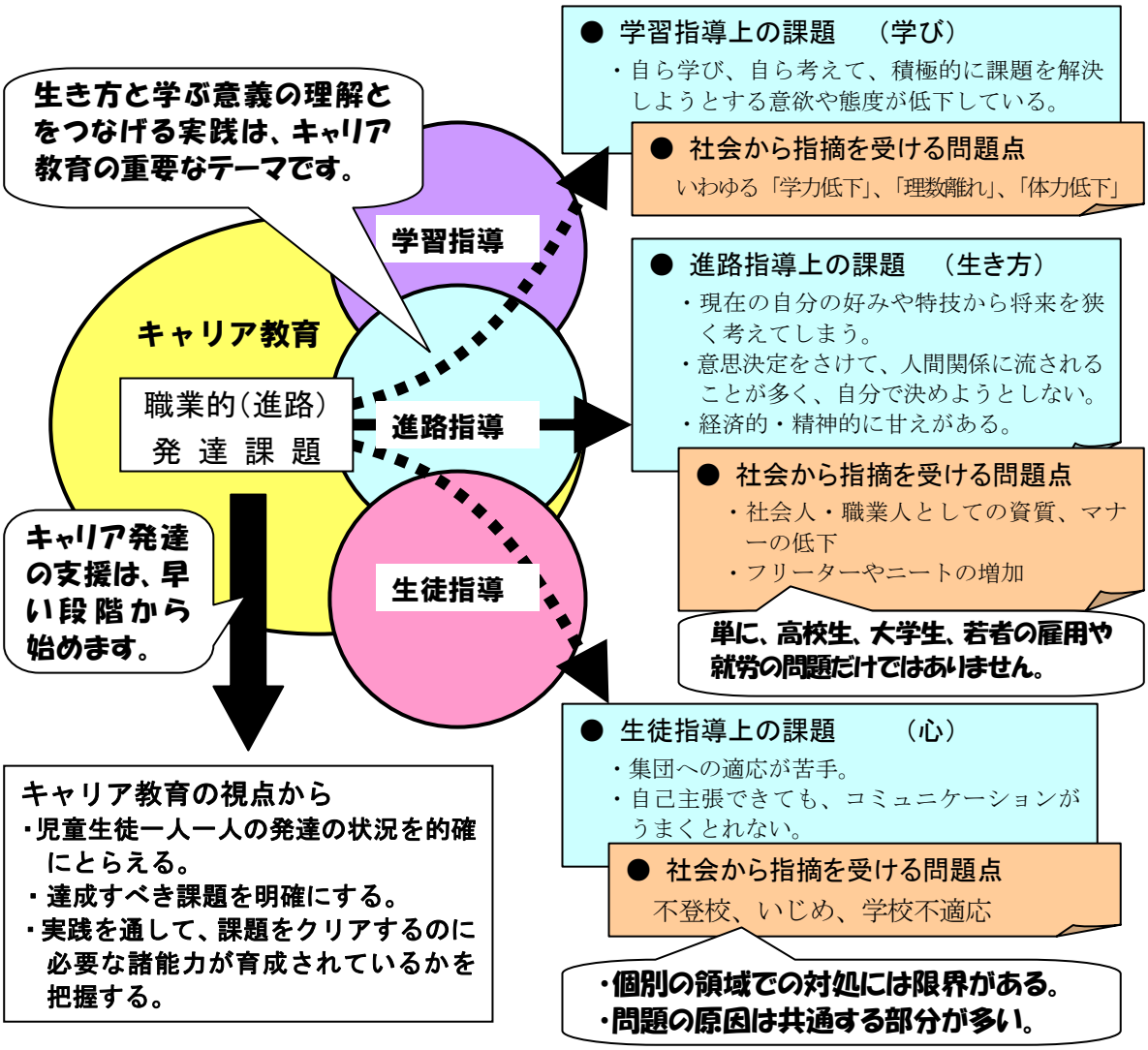
コミュニケーション能力をはじめとして、よりよい人間関係を築くための資質や能力は、社会人あるいは職業人として生きていくための基盤となるものです。小さなことでもかまいませんから、様々な活動を通して、人間関係に自信を付けさせていくことが大切です。また、あいさつや日常生活における基本的なマナーを指導する際には、相手や場に応じた振る舞いや、その人らしさを表現させることも重要です。

Q3　なぜ、小学校段階からキャリア教育に取り組む必要があるのか？

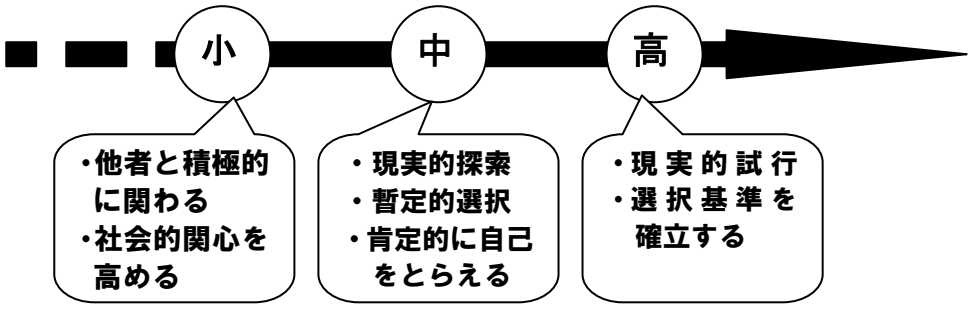
A３　近年、「フリーター」や「ニート」の増加に代表されるような、若者の働くことに対する意識や行動の変化は、児童生徒の発達をめぐる問題であると考えられます。

このような問題に対しては、高校や大学の進路指導の充実だけでは対処しきれません。小・中・高の連携を意識した体系的なキャリア教育の取組が求められています。

イメージ図　キャリア教育の視点と諸課題のとらえ方



■　小中高の連携を生かしながら、生き方や進路選択・決定をめぐって、どのような課題をクリアしていかなければならないのか？



学校段階別の生き方や進路をめぐる発達段階と発達課題の特徴

学校段階	小学校段階	中学校段階	高等学校段階
発達段階の特徴	生き方や進路を探索・選択をするための意欲、能力や態度の基盤をつくる時期	生き方や進路について現実的に探索して、暫定的に選択しようとする時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
自他の理解に関する発達課題の特徴 **人間関係形成能力**	自己及び他者への積極的関心の形成・発展 （具体例） ・自分の気持ちと他者の気持ちの双方を理解しようとする。	肯定的自己理解と自己有用感の獲得 （具体例） ・他者との関わりの中で、自分のよさに気付くことができる。	自己理解の深化と自己受容 （具体例） ・他者との関わりの中で、自分のよさ、欠点を含めて、個性として受け入れることができる。
働くことや職業選択に関する発達課題の特徴 **情報活用能力**	身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 （具体例） ・働く姿に関心をもち、仕事の種類や内容を理解しようとする。	興味・関心等に基づく勤労観や職業観の形成 （具体例） ・自分の職業に対する興味・関心や志向性などの特徴を理解する。	選択基準としての勤労観や職業観の確立 （具体例） ・自分なりの考えやよりどころを明確にして、職業や進路を選択しようとする。
将来設計や進路選択に関する発達課題の特徴 **将来設計能力**	夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 （具体例） ・自分があこがれている職業の内容を具体的に言うことができる。	進路計画の立案と暫定的選択 （具体例） ・仕事に就くなど、社会に出るまでの道すじをイメージして、卒業後の進路を決定しようとする。	将来設計の立案と社会的移行の準備 （具体例） ・仕事に就いてから、社会生活を営む自分の姿をイメージして、社会的に自立しようとする。
進路の決定に関する発達課題の特徴 **意思決定能力**	勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 （具体例） ・勤労体験や働く人々の姿を通して、社会の中で真剣に取り組むことの大切さを実感して、実践しようとする。	生き方や進路に関する現実的探索 （具体例） ・実際に働く人々の姿をモデルにしながら、将来の職業を選択したり、自分の進路を決定したりしようとする。	進路の現実吟味と試行的参加 （具体例） ・自分が実際に働くことを想定しながら、実際に職業を選択したり、自分の進路を決定したりする。

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書 平成 14 年 11 月）」をもとに作成

事 例 紹 介

ここでは、中学生や高校生の発達課題の特徴を踏まえて、自他の理解を促す指導を充実させるための事例を二つ紹介します。

事例５〔中学校〕自己紹介カードの作成

この中学校では、社会体験活動に参加させる際、肯定的自己理解や自己有用感の獲得を重視するねらいから、自己紹介カードに社会体験活動に寄せる期待や、自己ＰＲ文を書かせています。

■ **事例の特徴**：「自己紹介カード」の形式を工夫して、単なる所属や立場の紹介だけにならないようにしています。高校や大学でも、履歴書や志望理由書が書けないという悩みがありますが、書き方のガイダンスだけでは指導が十分ではありません。

中学校段階では、他者との関わりの中で自分のよさに気付き、それらを素直に表現しようとする態度を育成することが大切です。社会体験などの活動は、自他の理解を促すチャンスです。

自　己　紹　介

- **○ 事業所名**
- **○ 氏名**
- **○ 委員会、部活動、趣味、部活動、特技　など**

この体験場所を選んだ理由	興味・関心をもった理由など。 （記入例）家族が福祉施設に勤めていて、その様子を聞き、関心をもつようになりました。
この職場体験で得たいこと	生徒自身の課題など。 （記入例）福祉施設で働く人々が、どんな苦労や喜びを感じながら勤めていらっしゃるのか知りたい。
自己ＰＲ	

※　例示をあまりせず、できるだけ生徒に考えさせたい。
※　「○○委員をやっています。」のように、所属や立場の紹介だけに終わらないような書き方をさせる。

事例６〔高等学校〕生活や学習の習慣を振り返るセルフチェックシートの作成

この高校では、これまで身に付けた基本的な生活習慣や、学習に臨む態度などを振り返らせることから、進路学習を始めています。

■ **事例の特徴**：「セルフチェックシート」を用いて、自己評価をさせています。小学校や中学校で身に付けたことの意義を再確認させるねらいがあります。

セルフチェックシート

充実した高校3年間にするには*スタートが肝心*です。今日はここ最近の生活を振り返り、これからの高校生活がどうなるか見てみましょう。

日常生活と学習の両面からチェックして、１～３の中であてはまるものを回答欄に記入しましょう。

小学校や中学校段階で身に付けたものを重視します。

まずは日常生活から

① 就寝時刻＆起床時刻は規則的ですか。
　1　規則的である　　2　だいたい規則的である　　3　規則的では

② 挨拶は積極的にできていますか。
　1　元気に挨拶できる　　2　時々出来ている　　3　まだちょっと出来ていない

③ 清掃などの奉仕作業に、積極的に取り組んでいますか。
　1　いつも一生懸命　　2　時々サボってしまう　　3　サボってしまうことが多い

・
・　（④～⑥省略）
・

⑦ １日の時間をどのように使ったかを反省しますか。
　1　反省する　　2　時々反省する　　3

次に学習態度について

① 朝の読書は楽しんでいますか。
　1　いつも楽しく読んでいる　　2　時々楽しく読んでいる　　3

② 文章を書くときに出来るだけ漢字を使うようにしていますか。
　1　いつも気を付けている　　2　少し気を付けている　　3

◇ セルフチェックシートで感じた、自分の反省点を文章で書い

○ 私の反省点
○ 私の改善案
○ 改めて、高校での目標をたてよう！！
○ 疑問や質問、調べてみたいこと　（記入欄は省略）

高校段階は、自己理解の深化と自己受容が発達課題となります。
◆発達課題を踏まえて、他者と関わる中で、自分のよさ、欠点を含めて、個性として受け入れることができるかに着目させます。

事例から学ぶこと

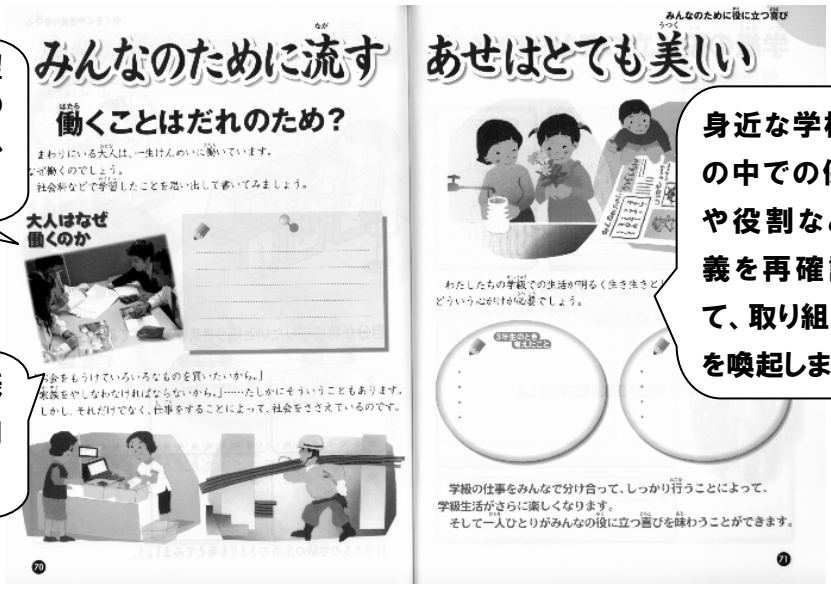
肯定的自己理解や自己有用感に基づいて自他を理解するためには、学習、スポーツ、芸術などの成績や特技の面だけでなく、幅広く日常生活や学校の諸活動を振り返らせて、自分のよさに気付かせることが大切です。また、自他の理解を促すためには、異年齢集団や地域の人々と関わる機会など、多様な人々と関わる活動と関連付けることが有効です。

解説４　児童生徒の発達と勤労観及び職業観のとらえ方

「勤労観」の上に「職業観」が形成されていくという発達上の特徴があることから、小学校段階のキャリア教育では、「勤労観」の育成に力点を置き、幅広く職業の世界に目を向けられるようにしていくことが大切です。そして、中学校、高校段階では、現実の職業世界を受け入れて、積極的に仕事に就こうとしたり、働くことの多様な側面を理解できるようにしたりすることが大切です。

小学校では、望ましい勤労観の育成に力を入れます。

働く意義の多様な側面に目を向けさせます。



身近な学校生活の中での係活動や役割などの意義を再確認させて、取り組む意欲を喚起します。

（「心のノート」小学校３・４年より）

◆　望ましい勤労観、職業観の例　◆

勤労観や職業観は個々人の価値観ですが、社会や集団で生きていく以上、いわゆる「望ましい」という共通する部分が必要となってきます。

■　基本的な理解や認識の面
- 職業には貴賤がなく、様々な職業から社会が成り立っている。
- 職務を遂行する際には、規範の遵守や責任がともなう。
- 職業には生計を維持するだけでなく、それを通して自己の能力や適性を発揮して、社会の一員としての役割を果たすという意義がある。

■　情意や態度の面
- 一人一人の存在やその個性が、かけがえのない価値のあるものである。
- 自己と働くこと及びその関係について総合的に検討を行った上で、勤労や職業に対する自分なりの考え方をもつ。
- 将来の夢や希望の実現を目指して取り組もうとする意欲的な態度をもつ。

解説５　中学生、高校生の「働くこと」に対するイメージ

次は、中学生及び高校生に対して「働くこと」のイメージを記述してもらった結果です。

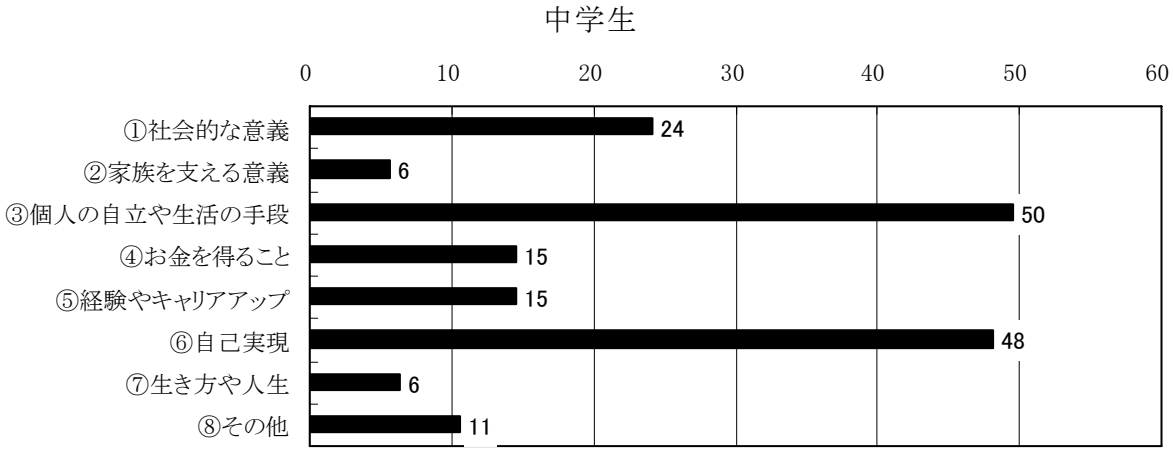
【 質　問 】

あなたは、「働くこと」について、どのようなイメージをもっていたり、感じたりしていますか。「働くことは、」に続けて、自由に書いてください。

下に「参考にすることば」を例としてあげましたが、それ以外のことばを使ってもかまいません。必ず一文以上書いてください。

○　記述内容を八つの区分（七つのカテゴリーとその他）に分類して、調査対象の全生徒数に対する各区分ごとの回答の割合（%）を示した。

○　一人が回答した文章中に、複数のカテゴリーの内容が含まれている場合、それらすべてを割合に含めた。



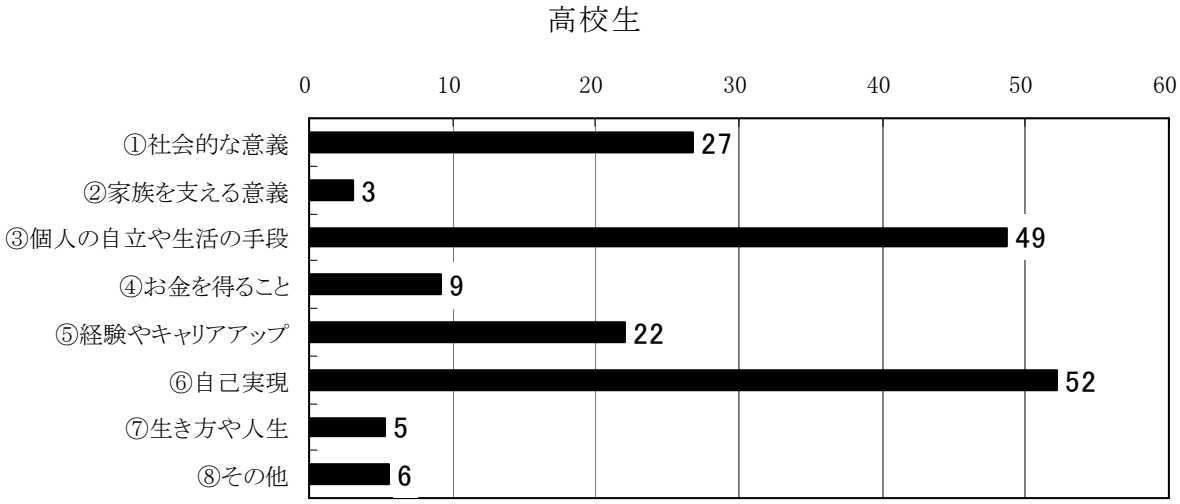


図　「働くこと」のイメージ

進路に関する調査（平成 17 年 7 月、栃木県総合教育センター）より
中学生 899 名（男 447、女 452）、高校生 869 名（男 201、女 668）、合計 1768 名

◆ 調査結果から分かること ◆

「働くこと」に対してもつイメージは、中学生、高校生とも似た傾向です。「個人の自立や生活の手段」と「自己実現」の二つのカテゴリーが 50%前後の回答であり、現実と夢、あるいは現実とあこがれの間で、イメージしていると推察されます。

実際の進路選択や職業選択の場面では、この二つだけでなく、「働くこと」の様々な側面を検討して意思決定を行っています。「働くこと」が社会との関わりや人間関係などに触れた回答は、やや少ない結果となっています。

○ 中学生の回答例

① 社会的な意義	人間の義務。働かないと社会はなりたたない。生きることの基本。
	社会に大きく貢献する。仕事はお金をたくさんもらえる。
	最後までやりとげなければならない。
	自分とお客さんとの信頼関係を築く。
	人に夢を与えるためのもの。
	他人を助ける仕事もある。
	仕事をしながら社会の役に立つ。
② 家族を支える意義	家族を支え、よりよい生活をするため。
	夫としての義務を果たし、家族を養う。
	お金があればやさしい明るい家庭ができる。
③ 個人自立や生活の手段	生活に必要最低限の金銭を稼ぐ。
	働いて得たお金で食べていける。自分のために働く。
	大人になって働いていないとお金がもらえず、なんとなく情けない。
④ お金を得ること	給料をもらえる。
⑤ 経験やキャリアアップ	いっしょうけんめい働いて、給料をもらい、その金をやりくりして生活して、社会の厳しさをあらためて実感すると思う。
	実績を残せばランクが上がる職業もある。
	社会に出て自分の立場を自覚する。
	社会を知るチャンスである。
	社会に出て自分をどれだけ試せるかを学ぶ。社会の厳しさを学ぶ。
	トップになって多くの人々たちを自分でまとめていく仕事をできるようにする。
	親がどんな思いをしてお金を貯めているか分かり、親の生き方も学べる。
⑥ 自己実現	ただ辛いだけでなく、厳しくてもやりがいがあって楽しんで自分のためになるものがいい。
	自分の人生を左右するもので、やりがいをもたないと一生苦労する。
	日々の生活にメリハリをつける。がんばってお金を得ると達成感がある。
⑦ 生き方や人生	生活に必要最低限の金銭を稼ぎ、好きなことをする。
	無業者にならない。
	能力の問題で職選びは自由にできないのでニートが増える。
	人によってはやりたいことがあって仕事にしている人もいるだろうし、お金のためには働いている人もいると思う。
	いい大学に入っていい会社に入った方がよい。
⑧ その他	お金がもらえるけれどつかれるイメージである。
	両親への感謝の気持ちをもつ。

○ 高校生の回答例

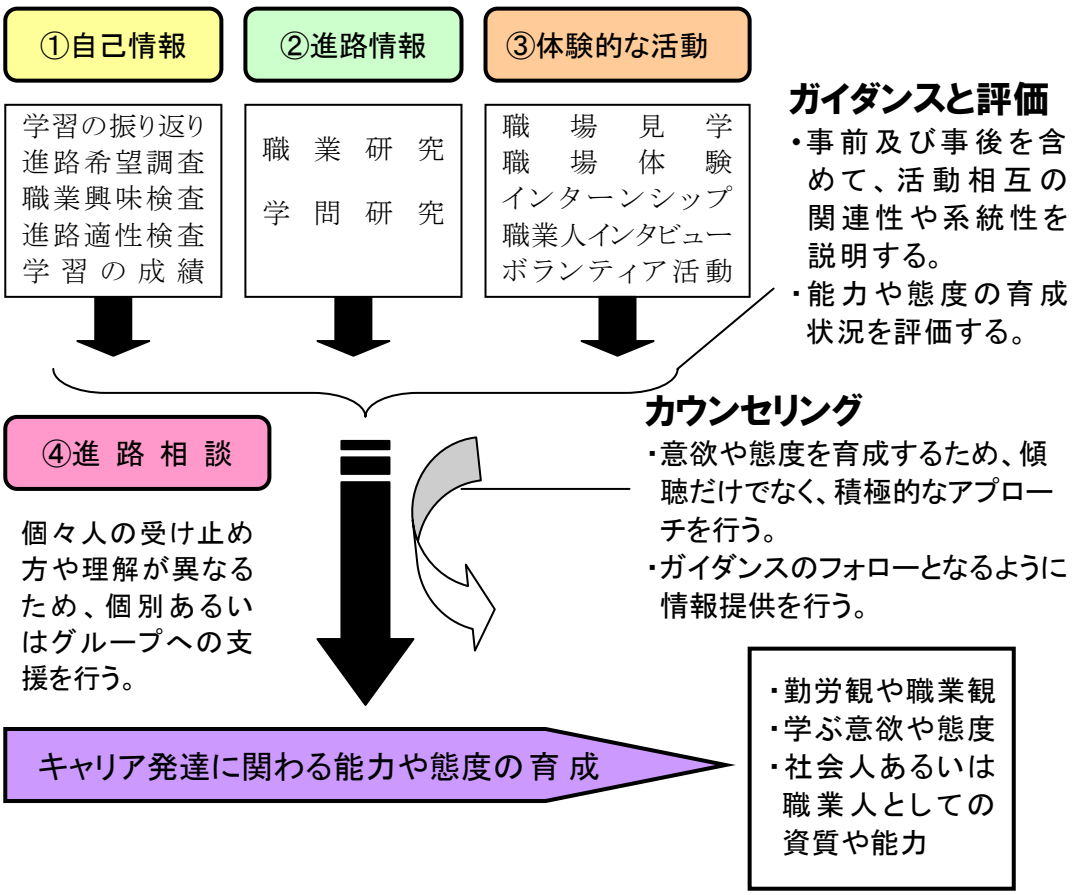
① 社会的な意義	働く人がいなければ、生活できない。一人一人が働いているから今の生活が維持できる。
	国民の義務、権利であり、生きるために必要な金を得る手段である。
	学校と違ってミスをすると会社に迷惑がかかってしまう。
	好きなときに休めず、会社から連絡があって急いで出勤する大変な感じである。
	責任が重く、最後までやり遂げなければならない。
	仕事上でふざけてしまうと、給料が下がってしまったり、解雇されてしまったりするのではないかというイメージである。
	人として社会の役に立つこと。
	社会の中で周りの人と協力して収入を得ること。
	社会人であることの象徴であり、社会とつなぐもの。
② 家族を支える意義	男の人にとっては、家族を養わなくてはいけないため、必要不可欠なことだと思う。
	家計を考えればお金をかせいで家庭を築くことも大切である。
	将来の家庭のためにもお金は必要である。
③ 個人自立や生活の手段	厳しいが働かなければ生活できない。
	金を得て生活を豊かにすること。
	何もしない無気力の状態から抜け出すための方法。
④ お金を得ること	働けば働くほどお金がもらえる。
	お金をかせぐこと以外に仕事をする意味はないと思う。何もしないでお金が手に入るなら仕事をする人はいないと思う。
⑤ 経験やキャリアアップ	生きがい、楽しさ、厳しさ、ルール、マナーを学ぶ。
	社会に出て色々な経験をする。
	学問とは違う「学び」ができる生活を送ること。
	様々な人と出会い、ふれあい、自分をどこまで出せるか、頑張れるか、試すこと。
	楽しさや厳しさの中で自分がどれだけのことができるか試すこともあり、自分がどの仕事に向いているか、知るチャンスをもらえる社会の場である。
	やりたいことを追求してその道の専門家になること。
⑥ 自己実現	自分で働いて自分でかせいだお金を手にしたときうれしくなるもの。
	興味や特技を生かして生活をより豊かにする。
	いろんな人や物と関わりをもち、楽しい生活を送れるようにすること。
	一生をかけてやりたいことを叶える方法。
⑦ 生き方や人生	将来自分の人生に影響していくので大切だと思う。
	人間、少しつらいくらいが幸せなんじゃないかと感じるところもある。
⑧ その他	当たり前にやること。
	全然知らない人たちと一緒に働くので不安である。

Q4　キャリア教育の視点を生かすことで進路指導の展開はどのように変わるのか？

Ａ４　**一人一人の児童生徒の発達に着目して、学ぶ意欲や態度、社会人や職業人としての資質や能力を確実に身に付けさせるために、これまで以上に系統的なガイダンスが求められるようになります。**

- 活動の前後のガイダンス、他の活動との関連などを明確にして、「『能力や態度』の育成を軸とした学習プログラム」となるようにします。
- 面談などのカウンセリングを、ガイダンスと関連付けて実施します。
- 生徒一人一人の変容を、活動を通して的確に評価し、把握します。

■　キャリア教育の視点を生かした進路指導の展開



事 例 紹 介

ここでは、進路希望調査を生かして、情報提供や進路選択を支援するためのガイダンスや進路相談を展開しようとしている事例を紹介します。

事例７〔高等学校〕ガイダンスとカウンセリングの体制づくり

この高校では、２年次からのコース選択に向けてガイダンスを充実させるために、進路希望調査票の形式を工夫したり、個別のフォローのための相談の機会を計画的に設定したりしています。

■ 事例の特徴：進路希望、進路設計、レディネスの把握

「進路希望」は希望先だけでなく、どのような考えをよりどころにして判断しているかを知ることが大切です。「どのような情報が不足しているのか」あるいは「どのようなことで判断に迷っているのか」などを把握することで、効果的なフォローが可能となります。また、次の段階のガイダンスの留意点も明らかになります。

① 調査票

進 路 希 望 調 査　　（平成１７年９月実施）

□年　□組　□番　氏名 □

卒業後の進路について、各項目の指示にしたがって回答してください。

１　進学希望

次の①、②については、選択肢の中から希望の種別・系統選び記号で答える。
③については志望する学校名・学部名・学科名を記入する。

具体的な希望先とあわせてガイダンスや個別のフォローの必要度を把握する。

３　進路希望に関する自分の考え

① 現在の進路希望について

ア　かなり希望が固まっている　　イ　ある程度希望が固まっている
ウ　少し迷っている部分もある　　エ　かなり迷っている部分がある

ウ、エを選んだ人は、「迷っている部分」について具体的に書いてください。

☆（記述例）希望した医療系の分野の学問や仕事に向いているか心配である。

② 実現の可能性について

ア　かなり可能性があると思う　　イ　やや可能性があると思う
ウ　やや厳しいと思う　　エ　かなり課題が多く厳しいと思う

将来設計の能力や態度を把握する。

③ 将来、高校を卒業してから仕事に就くまでをイメージして、その道すじを簡潔に書いてください。また、そのように考える理由も書いてください。

☆（記述例）外国語系の学部に進学して、その後外資系の企業に就職したい。なぜなら自分の活動する範囲を、県内や日本国内だけに限定したくないから。

※　進路について聞きたいことがあれば書いてください。

② 集計と個別のフォロー

	種別	類型 (コース)	現在の進路希望について	実現の可能性について	仕事に就くまでの道筋
生徒A	国公立大学	文系	かなり迷っている部分がある。	やや可能性があると思う。	とりあえず大学に進学する。 →大学で資格をとる。 →もっている資格を生かして就職する。
生徒B	各種学校 専門学校	理容・美容、調理系	すこし迷っている部分がある。	やや難しいと思う。	専門学校へ行き、メイクなどを学び、その後、化粧品売り場などで働く。なぜなら、お化粧するのを小さい頃からあこがれていたから。
生徒C	国公立大学	理　系	かなり迷っている部分がある。	課題がかなり多く、厳しいと思う。	行きたい学部に進学して、就職したい。

○ ガイダンスのポイント

・大学で学ぶことと専門学校で学ぶことの違いを理解するための情報が得られていない。 →進学説明会のテーマや内容の設定

・自分の将来設計のモデルとなる存在が希薄である。
　→先輩に学ぶ（卒業生との懇談会のテーマ設定）　（生徒A）

・現実的職業の理解が不足しがちである。（生徒A）

・あこがれだけで選択しがちである。（生徒B）
　→進学説明会のテーマや内容の設定

○ カウンセリングのポイント

・学力等の課題から実現の難しい進路希望の場合、フォローしながら、自己を生かす進路の分野を探索しようとする意欲を喚起しなければならない。グループ・カウンセリングなど、方法の工夫が必要である。（生徒C）。

事例から学ぶこと

日々の指導の中では、それぞれの教員が行う評価や現状分析だけで終わってしまうことがあります。また、学級単位の集計結果にばかり目が向き、個々の生徒の変容を見落とすこともあります。そこで、アンケートや調査などの項目を少し工夫するだけでも、一人一人の発達の課題が浮き彫りになると考えられます。ガイダンスとカウンセリングの機能を生かすためには、生徒一人一人の活動を通して現状を把握することや評価可能なデータを得ることが大切です。

また、こうした現状把握や評価の結果は、できるだけ指導にあたる教員同士で共有することが大切です。それにより、学級などの単位か個別かの二者択一の指導形態だけでなく、多様なグループを編成してガイダンスやカウンセリングを試みることができます。

○ 勤労観や職業観を育む学習プログラムの枠組み（例） ― 職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点から

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の勤労観や職業観を育む教育の推進について（調査研究報告書．平成14年11月）」より

			小学校		
			低学年	中学年	高学年
職業的（進路）発達課題			進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期		
○職業的（進路）発達課題（小～高等学校段階） 各発達段階において達成しておくべき課題を進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの			・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成		
職業的（進路）発達に関わる能力			職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度		
領域	領域説明	能力説明			
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	**【自他の理解能力】** 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。 友達と仲良く遊び、助け合う。 お世話になった人などに感謝し親切にする。	自分のよいところを見付ける。 友達のよいところを認め、励まし合う。 自分の生活を支えている人に感謝する。	自分の長所や欠点に気付き、自分らしさを発揮する。 話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	あいさつや返事をする。 「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。 自分の考えをみんなの前で話す。	自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。 友達の気持ちや考えを理解しようとする。 友達と協力して、学習や活動に取り組む。	思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 **異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。**
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	**【情報収集・探索能力】** 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	**身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。**	**いろいろな職業や生き方があることが分かる。** 分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。	**身近な産業・産業の様子やその変化が分かる。** **自分に必要な情報を探す。** 気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力	**係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。**	**係や当番活動に積極的に関わる。** **働くことの楽しさが分かる。**	**施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦労が分かる。** **学んだり体験したりしたことと、生活や職業との関連を考える。**
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	**【役割把握・認識能力】** 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	**家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。**	**互いの役割や役割分担の必要性が分かる。** **日常の生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。**	**社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。** **仕事における役割の関連性や変化に気付く。**
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	**作業の準備や片付けをする。** **決められた時間やきまりを守ろうとする。**	**将来の夢や希望を持つ。** **計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。** 学習等の計画を立てる。	**将来のことを考える大切さが分かる。** **憧れとする職業を持ち、今、しなければならないことを考える。**
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	**【選択能力】** 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	**自分の好きなもの、大切なものを持つ。** 学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる。	**自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。** してはいけないことが分かり、自制する。	**係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。** 教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	**自分のことは自分で行おうとする。**	**自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。** **自分の力で課題を解決しようと努力する。**	生活や学習上の課題を見付け、自分の力で解決しようとする。 **将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。**

＊　太字は、「勤労観や職業観の育成」との関連が強いものを示す

			中　学　校	高　等　学　校
職業的（進路）発達課題			現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
○職業的（進路）発達課題（小～高等学校段階） 各発達段階において達成しておくべき課題を進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの			・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観や職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索	・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての勤労観や職業観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加
職業的（進路）発達に関わる能力			職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度	
領域	領域説明	能力説明		
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	**【自他の理解能力】** 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	**自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。** 自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 自分の悩みを話せる人を持つ。	**自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。** 他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 互いに支え合い分かり合える友人を得る。
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	**他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。** **人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。** **リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。** 新しい環境や人間関係に適応する。	自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。 **異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。** **リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。** 新しい環境や人間関係を生かす。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	**【情報収集・探索能力】** 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	**産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。** **上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。** **生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。** 必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。	**卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。** 就職後の学習の機会や上級学校卒業後の就職等に関する情報を探索する。 **職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。** 調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力	**将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。** **体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。** 係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。	就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。 社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。 多様な勤労観や職業観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	**【役割把握・認識能力】** 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	**自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。** **日常の生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。** **様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。**	**学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。** **ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。** **将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。**
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	**将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。** **進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。** **将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。**	**生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。** **職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。** **将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。**
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	**【選択能力】** 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	**自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。** **選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。** 教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。	**選択の基準となる自分なりの価値観、勤労観や職業観を持つ。** **多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。** **進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。** **選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。**
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かす。 **よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見い出していくことの大切さを理解する。** **課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。**	**将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。** **自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。** 理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。

Ⅱ　組織的・体系的なキャリア教育を実践するポイント

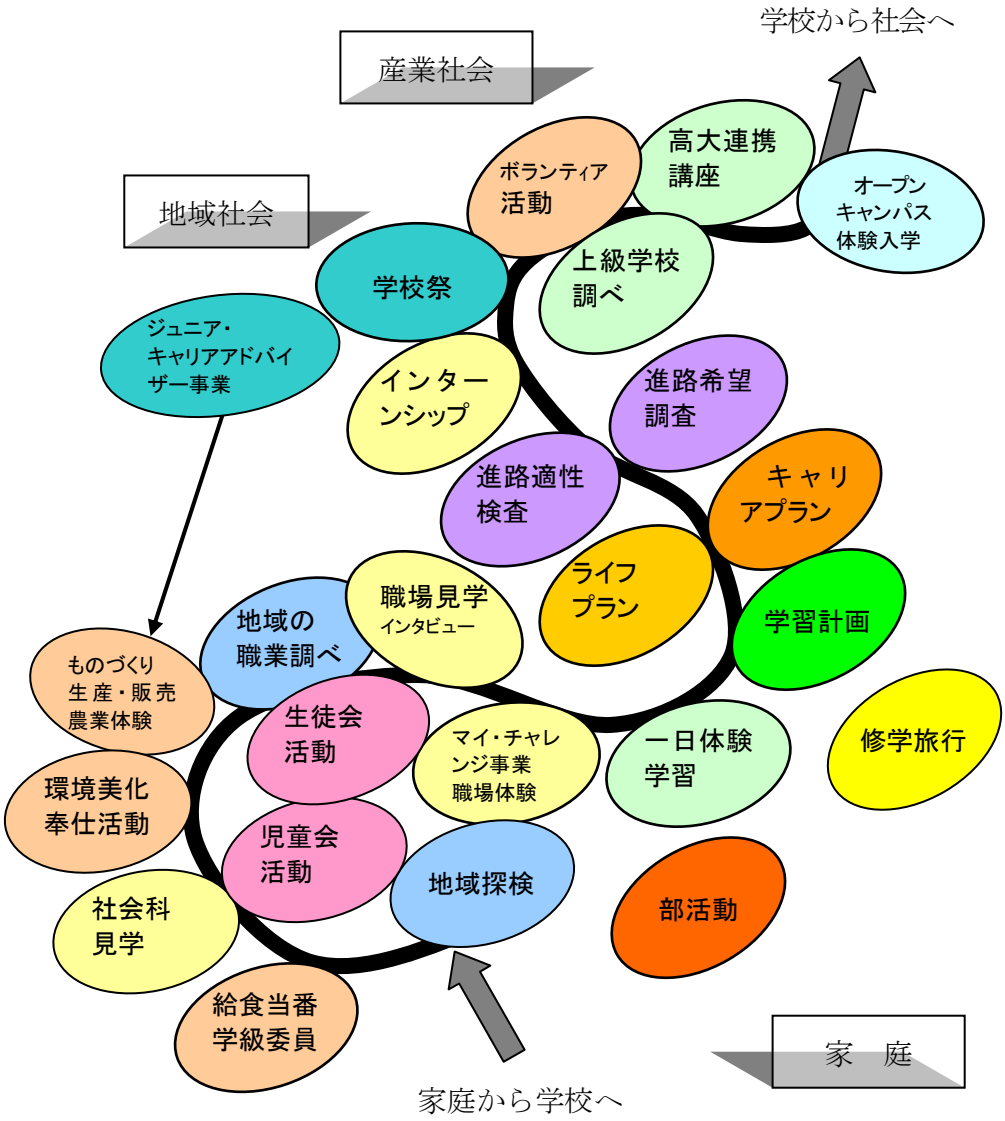
－　「能力や態度」の育成を軸とした学習プログラムの開発に向けて　－

小学校から高校までの学校教育の各段階では、様々な学習活動や諸活動が組織的・計画的に行われています。しかし、職場体験やインターンシップのように、進路指導としての位置付けやねらいが明らかにされている活動ばかりではありません。

このようなことから、本章では、現在の中学校、高校の進路指導の計画や実践をとらえ直して、諸活動を「能力や態度」の育成を軸とした学習プログラムへと再構築するための考え方や工夫について紹介します。

イメージ図　キャリア教育を実践する学校の教育活動や諸活動の例

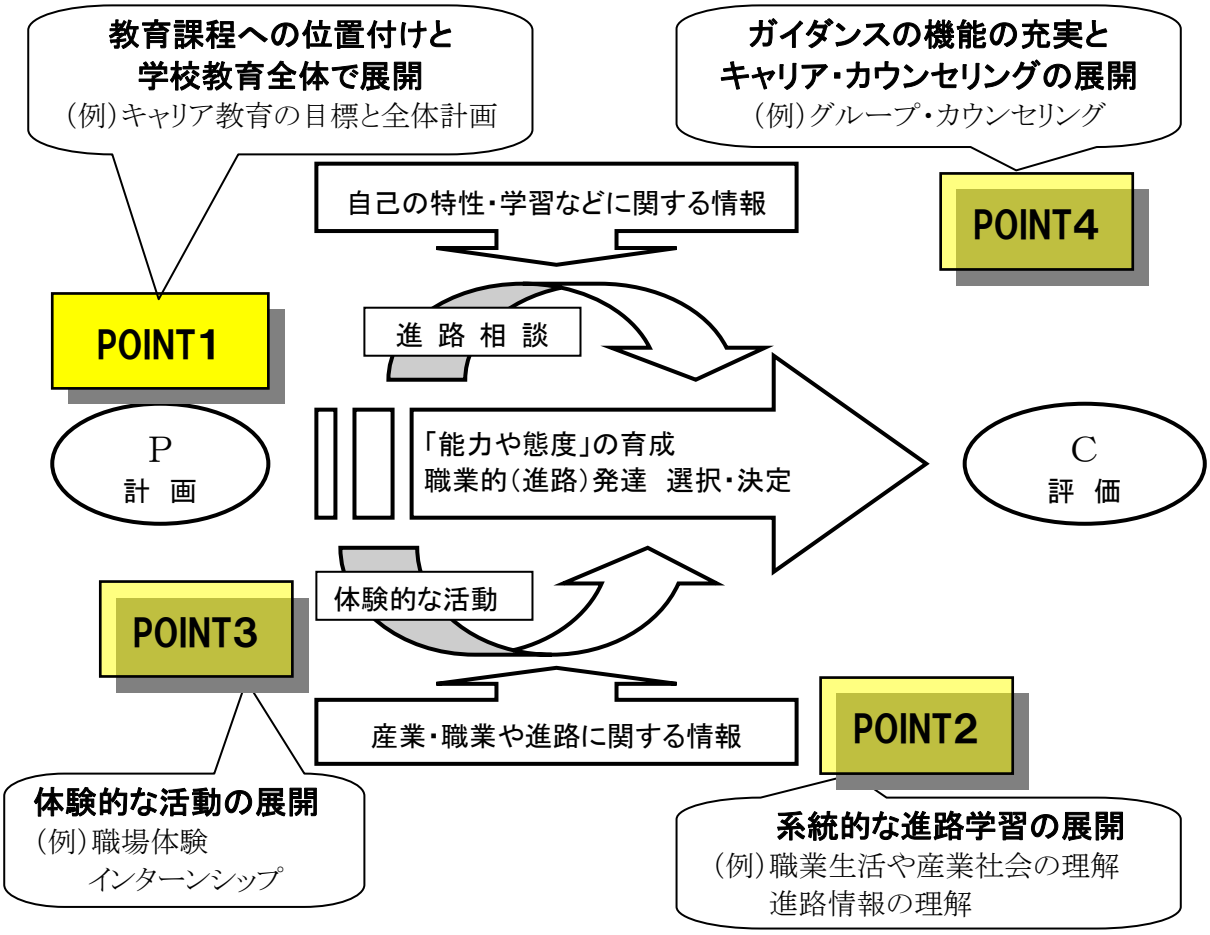
（小学校段階から高校段階まで）



■ 「能力や態度」の育成を軸とした学習プログラムとは？

キャリア教育を実践するということは、育成を目指す能力や態度を具体的な目標として設定して、生き方や進路に関わる諸活動を相互に関連付けながら展開することにほかなりません。そのための指導計画、教材、指導マニュアルのまとまりを学習プログラムと呼びます。一つ一つの学習プログラムが、計画、実践、評価のまとまりとなっていますが、全体計画（全体構想）のもとで、複数のプログラムが関連し合い効果的に展開されるように、下の図のようなイメージを大切にして開発していくことが求められます。

イメージ図　能力や態度の育成を軸とした学習プログラム展開
と本章で解説するポイント



○　本章では、イメージ図に示した四つのポイントについて、事例や資料を示して解説します。

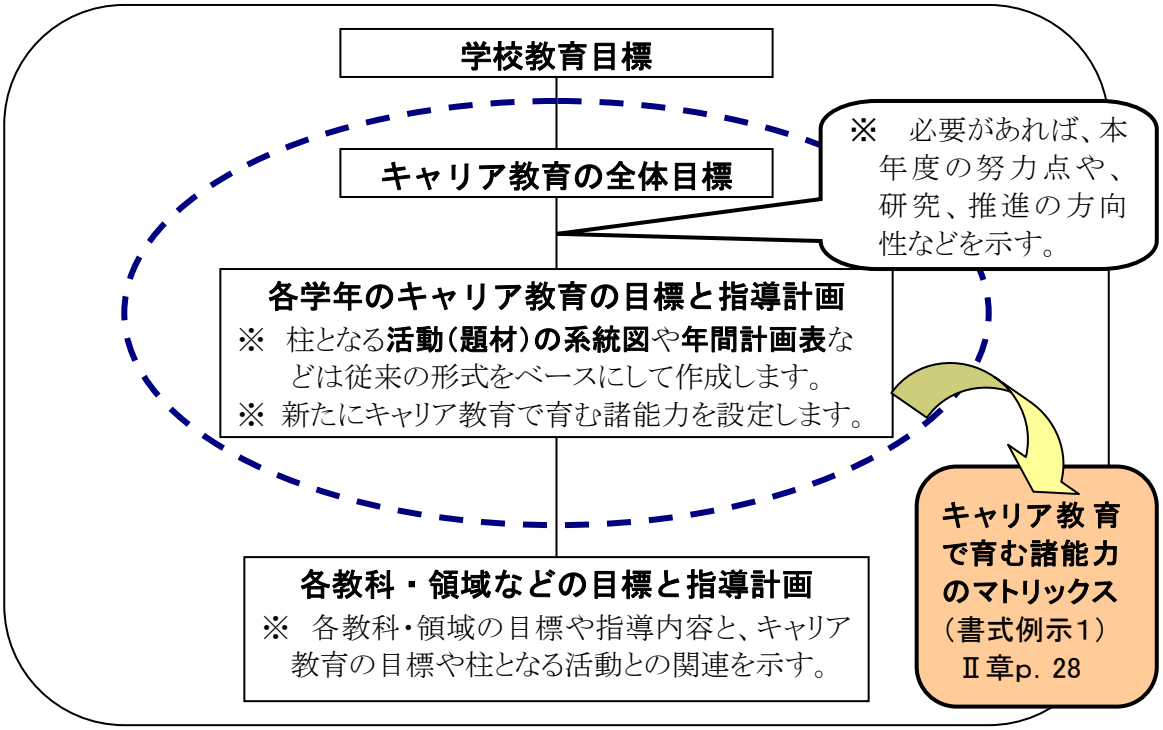
POINT 1　キャリア教育を教育課程に位置付けて、学校教育全体で展開する

学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた小学校段階からの組織的、系統的なキャリア教育の推進に取り組むためには、教育課程への位置付けとその工夫が求められます。

中学校や高校では、これまでの進路指導計画を、「能力や態度」の育成を軸としたキャリア教育の指導計画に移行することが可能と考えられます。具体的には、諸活動の目標にキャリア教育で育む諸能力を設定して、計画、実践、評価の一体化を図ります。

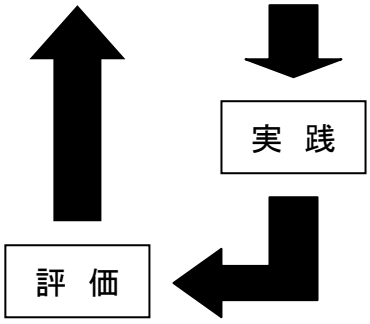
■ キャリア教育の全体計画（全体構想）の作成と展開

キャリア教育の全体計画



※ 児童生徒の自己評価を重視して、活動の振り返りを促す。

※ 次の実践につなげたり、今後の計画の改善に役立てたりする。



※ 実践にあたっては、目標に設定した「能力や態度」の育成を主眼として指導・支援する。

※ 評価にあたっては、目標に設定した「能力や態度」に着目するだけでなく、児童生徒の「能力や態度」の変容を幅広くとらえる必要がある。

解説6　キャリア教育で育む諸能力の設定

全体計画を作成するためには、まず、全体の目標や各学年の目標に、育成すべき能力や態度を設定する必要があります。このためには、次に示すようなキャリア教育で育む諸能力のマトリックスを作成すると、具体的な能力や態度の育成という観点で、現在の進路指導の諸活動相互の関連、あるいは各教科や他領域との関連付けを図ることが容易になります。

■　キャリア教育で育む諸能力のマトリックス（書式例示1）

キャリア教育の全体目標 ※ 従来の学校進路指導目標をベースに設定 ※ 必要があれば、キャリア教育推進のテーマを設定する。						
学　年 ※ 中高一貫教育校では適切に区分を設定する。				第○学年	第○学年	第○学年
学年のキャリア教育の目標 ※ 発達課題や柱となる活動に着目して設定する。						
実践の柱となる活動 ※ 体験的な活動のように、複数の能力を伸ばすことが期待される学校全体の取組を示す。				（中学校の例） ・職場体験 （高校の例） ・大学の公開講座		
育成を目指す諸能力 （職業的（進路）発達に関わる諸能力				具体的な能力や態度（意欲も含む）		
領域	領域説明	能力	能力説明			
（例） 人間関係形成能力		（例） 自他の理解能力				
		（例） コミュニケーション能力				
（例） 情報活用能力		（例） 情報収集・探索能力				
		（例） 職業理解能力				

※　育成すべき能力や態度やその具体例については、p. 23、24の表に示した項目などを参考にして設定します。

※　必要があれば、領域を追加したり、再編成したりします。

○　各教科・領域との関連

※　従来の計画と同様に関連する内容を示します。

※　各教科・領域の計画に新たに目標を追加する前に、まず、従来の目標をとらえ直して、キャリア教育で育成を目指す能力や態度と関連の深い項目を選び出して示します。

事例紹介

ここでは、中学校の進路指導計画の形式を例にして、キャリア教育の指導計画作成の考え方を説明します。

事例８〔中学校〕現在の進路指導計画からキャリア教育の視点を読み取る

この中学校の例のように、現在の進路指導計画をキャリア教育の視点で見直すことができます。

■ 進路指導の全体計画（全体構想）について

学校教育目標

学ぶ意欲
思いやる心
やりぬく心

生徒、家庭、地域の実態
保護者の願い
学校教育の課題

・学校教育法
・学習指導要領

① 心の教育や本県独自の「３あい運動」などの視点

② 総合的な学習の時間を重視する視点

学校進路指導目標

・生徒一人一人の能力や適性などの伸長を図る
・個性に応じた将来の進路を選択できる能力を養う
・将来の目標に向かって最善の努力をする生徒を育成する

・生涯学習
・学校評議員

いきいき活動

・学びあい
・喜びあい
・はげましあおう

今年度の努力点

・学級活動での系統的、発展的な指導の強化
・集団活動や個別指導に生かせる資料・情報の収集及びその活用
・勤労観、職業観の育成（体験学習、職場見学などの実施：1・2学年）
・体験や情報の共有化

総合的な学習の時間における進路指導の工夫（研究と実践）

体験的な学習の事後指導の一環として、発表の場を設け、個人の経験や情報を集団で学び合い、さまざまな

③ 様々な体験や学習を「つなぐ」、「成果や情報を累積する」視点

④ 様々な能力や態度の育成を重視する視点

各学年の指導目標

第1学年	第2学年	第3学年
・進路学習や将来への関心を高める ・自己理解や自己の伸長に努める態度を育成する	・自分の特性をさらに深く理解させる ・職業や上級学校の情報をもとに能力や適性を踏まえた進路計画を立てさせる	・将来を見通した具体的な進路の選択を援助する ・将来に対する不安を解消し、目標に向かって努力する態度を育成する

⑤ ガイダンス及びカウンセリングを重視する視点

各領域などにおける指導内容

教　科	道　徳	特別活動	進路相談	保護者や地域との連携
・分かる授業、成就感の味わえる授業を実践する ・職業生活に必要な基礎的知識や技能を習得させる ・自己の能力や適性を知り進路の選択に生かせる授業を実践する	・勤労の尊さや働く喜びを知らせ、職業生活に適応する資質を養う ・よりよい生き方について様々な角度から考えさせることによって、職業人として心構えを育てる	・一人一人が存在感をもち、楽しい生活ができるような学級づくりを工夫する ・集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育てる ・生徒会活動、学校行事の意義を理解させ積極的に取り組む態度を育成する ・年間計画に沿い、系統的な進路学習を実践する	・進路相談を適切に実施し、個に応じた指導・助言を行う	・保護者、地域社会・高等学校などの関係諸機関との積極的な連携を図る

⑥ 保護者、地域、関係機関などとの連携を重視する視点

進路指導推進上の基盤（省略）

■ 進路指導の全体計画（全体構想）を見るポイント

※　前ページに示した全体計画の①～⑥のそれぞれの視点について説明します。

①　心の教育や本県独自の「３あい運動」の視点

社会性や人間関係形成能力の育成の面からも、キャリア教育と共通する方向性をもった視点と考えられます。

②　総合的な学習の時間を重視する視点

総合的な学習の時間で育成しようとしている能力や態度の多くは、キャリア教育においても重視されます。総合的な学習の時間で育てようとする資質や能力と、キャリア教育で育成を目指す能力や態度とを比較検討したり、関連付けたりすることが大切です。

③　様々な体験や学習を「つなぐ」、「成果や情報を累積する」視点

「キャリア」とは、個々人に累積されていく経験や能力全体を意味するものです。それぞれ別個の体験や学習、情報を生徒がつなげられるように、諸活動を体系化することが求められます。

④　様々な意欲や能力や態度の育成を重視する視点

キャリア教育で育成を目指す能力や態度を目標として位置付けます。また、評価の観点として、より具体的な項目を設定する必要があります。

⑤　ガイダンス及びカウンセリングを重視する視点

キャリア教育では、生徒指導や学習指導と連携して、学習や集団へのよりよい適応や、科目や進路の選択及び決定を支援するために、ガイダンスならびにそれを相補う関係にあるカウンセリングの充実が求められます。

なお、各教科、領域と進路指導の関連を機能させるには、それぞれの活動が本来もっているねらいを確実に達成していくことが不可欠です。

⑥　保護者、地域、関係機関などとの連携を重視する視点

これまでも、進路指導は、保護者や地域の人々との連携をより深める方向で改善されてきました。今後は、具体的な活動や生徒の姿を通して、キャリア教育のねらいを社会に広く知ってもらえるよう推進することが大切です。

事例９〔中学校〕現在の進路指導の目標からキャリア教育の視点を読み取る

この中学校では、進路指導の目標を設定する際に、将来の生き方や進路を考える能力や態度の育成に着目して、全体計画を作成して実践を進めています。

■ 進路指導の目標について

学校教育目標

学　校　進　路　指　導　目　標
1 全教育課程を通して、生徒一人一人が自己の価値を高めようとする態度を育成する。 2 将来の職業生活においてよりよく自己を生かし、生きがいのある人生を築こうとする意欲を育てる。 3 成就感・達成感を味わいながら進路計画を立てることができるようにする。 4 自己の意志と責任で進路を選択決定できるようにする。

進　路　指　導　目　標		
１年	２年	３年
○　自己を理解することの必要性を理解させる。 ○　進路学習の重要性を理解させ、その基本的考え方や基礎的能力を養う。 ○　進路に関する資料の収集と活用の方法を理解させる。 ○　**職場見学**を通し職業に対する視野を広め、望ましい職業選択をする心構えをもたせる。	○　働くことや学ぶことの意義と職業について理解させる。 ○　上級学校・各種学校の概要や特色及び職業の内容・適性などについて理解させ、進路選択能力を養う。 ○　**職業体験学習**を通して、職業に関する現実的な理解を促す。 ○　進路に関する資料の収集と活用を通して、よりよい進路計画を立てさせる。	○　自信と希望をもって、自己の進路決定を促す。 ○　進路計画に基づいて職業や学校の選択ができる能力を養う。 ○　先輩や地域社会から進路に関する資料を収集する意欲を育てる。 ○　進路相談により自己の進路選択ができ、その進路に向かって前進する意欲を育てる。

① 柱となる活動の明確化

② 進路について考察、情報収集、選択・決定する方法の重視

事例から学ぶこと

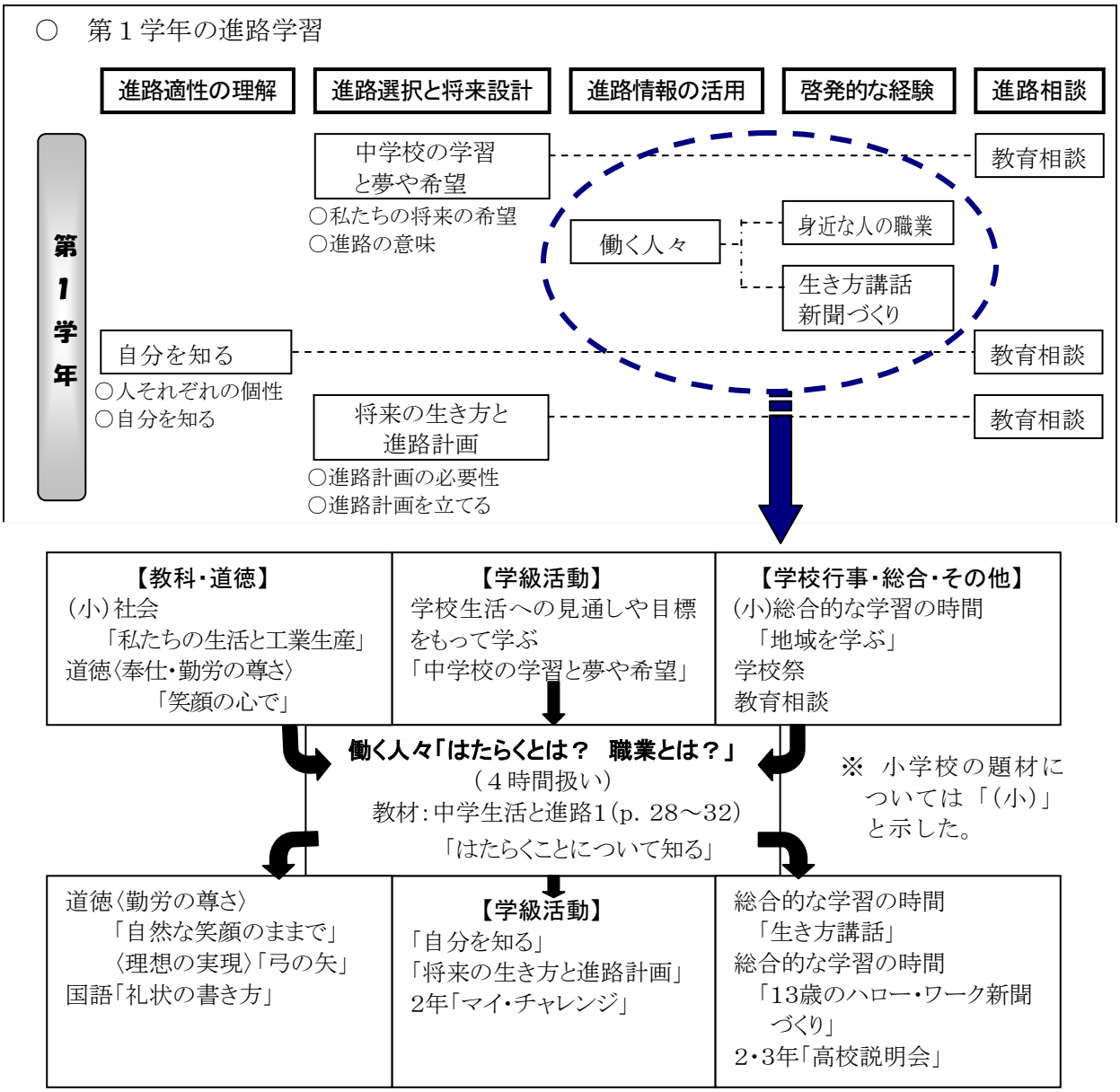
①　現在の進路指導計画から、キャリア教育の指導計画へ移行する際には、育成すべき能力や態度（意欲を含む）をより具体化して設定し、諸活動を関連付けたりや位置付けたりすることが求められます。

②　中学校や高校では、小学校よりも個人の選択や意思決定の機会が次第に増えると考えられます。そこで、具体的に進路について考察したり、選択・決定したりするために必要な知識や方法など、生き方や進路についての学び方を重視する必要があります。

POINT 2　目標や評価の観点を明確にして系統的な進路学習を展開する

キャリア教育では、社会や経済の仕組みについての現実的理解を図ることが求められています。そのためには、職業生活や産業社会に関する基礎的な知識や理解が重視されます。体験から学ぶだけでなく、系統的に学習することも必要です。すでに、中学校、高校のいずれにおいても、題材の系統や年間計画に基づいて進路学習が展開されています。今後は、単元や題材の系統性を重視するとともに、目標や評価の観点を明確にして適切なガイダンスと個別指導が行われるようにします。

■ 題材の系統



事例紹介

ここでは、中学校と高校の進路学習の取組を例にして、系統的な学習プログラムを構築する考え方を説明します。

事例 10〔中学校〕目標や評価の観点を明確にした進路学習を実践する

この中学校では、キャリア教育の視点を生かして活動のねらいを検討し、生徒の自己評価を促すように、ワークシートの改善に取り組んでいます。

■ 学級活動を柱とした学習プログラムの構想（題材の指導計画）について

1 単元名

「働くとは？　職業とは？」（１学年）

2 単元の系統図（省略）

従来の目標と対比することが大切である。

育成すべき意欲や能力・態度を幅広くとらえる必要があるが、指導に力点を置く項目を明らかにする必要がある。

3 単元目標

本単元での目標	キャリア教育の視点からの目標（◎重要　○やや重要）
1　職業や働くことに関心をもち、これについて学ぶ意欲をもつ。 2　自分の関心のある職業を認識し、さらに深く知ることに意欲をもつ。 3　働く人の具体的な姿を通じて職業の多様な面を知り、関心をもつ。 4　広く生き方について多様な観点をもつとともに、勤労観や職業観を育む。	**人間関係能力**（自他の理解能力、コミュニケーション能力） ○自己の職業について、興味や関心をもつ。 ○インタビューを通して、大人とのコミュニケーション・スキルの基礎を習得する。 **情報活用能力**（情報収集・探索能力、職業理解能力） ◎生き方や進路に関する情報を、インタビューを通して、調査、収集できる。 ◎勤労の意義や、働く人の様々な思いが分かる。 ○職業や仕事のあらましを理解する。 **将来設計能力**（役割把握・認識能力） ○職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。

従来の目標の抽象的な部分を、具体化する。

4 単元計画

時間	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第1時間	単元「いろいろな職業」 1　テーマの意識化 ・「働く」とはどういうことかを事前のアンケートをもとに発表する。 ・「働くこと、職業について」考えようとする。	・導入部分であるので、生徒のもつ多様な考えを肯定的に受け止め、引き出すようにする。	**人間関係形成能力** **（コミュニケーション能力）** ・友達と協力して、学習に取り組むことができる。	学習観察 発表
	2　職業の多様な面について考える。 ・進路ノートを見て、ワークシートに分類する。	・作業を通して、様々な職業の存在や、職業の多様な面をとらえさせる。	**情報活用能力** **（職業理解能力）** ・職業や仕事のあらましを理解する。	学習観察 ワークシート

単元（題材）の目標に示していないが、グループワークを展開する際の評価の観点として設定してある。

5　事前及び事後の指導のポイント

（1）事前のアンケート（「働くこと」）をもとに、生徒の職業に対する理解や見方などについて把握します。

（2）３学期に将来設計シートを作成する際に、今回のワークシートを参考にさせます。

（3）身近な働く人々に対するインタビューを通して、第２学年のマイ・チャレンジ活動に必要な、大人とのコミュニケーション・スキルの基礎を身に付けさせます。

従来の題材の系統だけでなく、能力や態度の育成の視点から事前・事後の指導をとらえる。

■　体験的な活動（インタビュー）のワークシート

身近な人の職業調べ調査用紙　（平成１８年１月実施）

一方的な聴き取りとならないように自分の紹介も加えるようにさせる。

1　答えていただいた方の名前【　○○　○○さん　】
　自分との関係　　【　おば　　】

2　働いている人に質問し、答えていただいたことを記録しよう。

☆　インタビューの前と後に、「よろしくお願いします。」、「ありがとうございました。」とあいさつしよう。

質問の内容	答えていただいたことの記録
①職業名と、仕事の内容や特色	薬剤師、保健薬局の調剤
②この仕事をやろうと思ったのはなぜですか。	医療の仕事をしたかったから。
③この仕事をやっていて一番つらかったことは何ですか。	会社を休めない。責任が重い。

質問例は提示してあるが、自分で設定できるようにしてある。

3　調査を終えての感想

薬剤師という仕事は具体的によく分からなかったが、お話を聞いてよく分かった。
「薬」を扱う責任の重い仕事であることが分かった。

4　調査を振り返っての感想

（1）　自分から進んで情報が集められましたか。　A　Ⓑ
（2）　職業や生き方についての情報の集め方が分かりましたか。　A　Ⓑ
（3）　聞いたことはわかりやすく記録できましたか。　Ⓐ　B　C
（4）　聞いた人の職業の内容について分かりましたか。　Ⓐ　B　C
（5）　聞いた人の仕事や生き方に対する考え方が分かりましたか。　A　Ⓑ　C

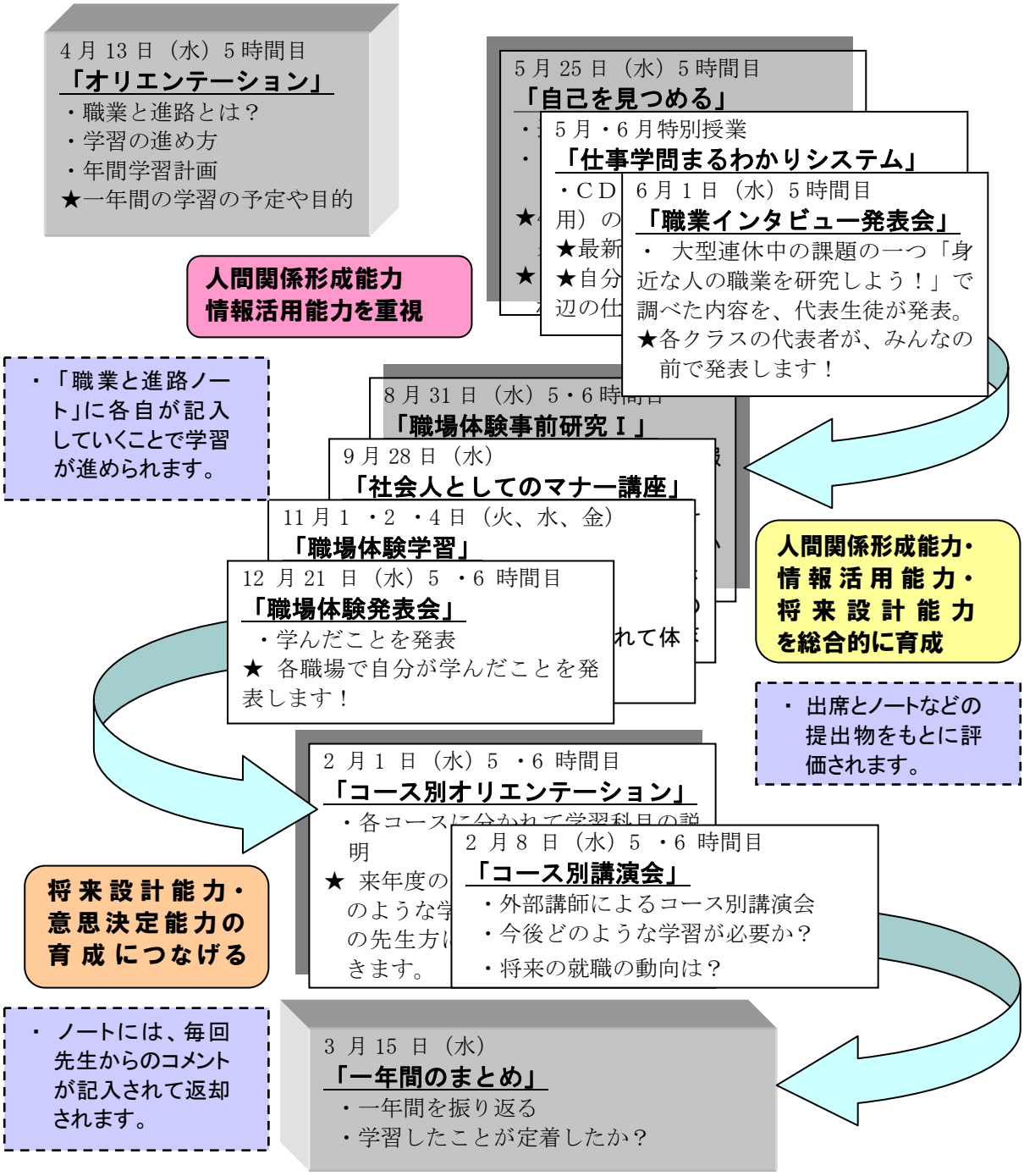
「Ａ」になるようにするためには、どんな質問をするとよいか考えさせる。

質問例
・その仕事を選んだ（決めた）理由　・その仕事につくために必要な資格や免許、それを取得する方法　・その仕事のよいところ、生きがい　・その仕事につらいところ、たいへんな点　・その職業を希望する中学生へのアドバイス

事例 11〔高等学校〕総合的な学習の時間で進路学習を展開する

この高校では、第１学年の総合的な学習の時間を、進路について考察する活動を中心として展開しています。第２学年以降のコース選択につながるように系統的な進路学習となっています。

■ 総合的な学習の時間における系統的な進路学習の展開例



進路ノートを用いて、教科などと同様に評価を重視した指導を行っています。また、インタビューやインターンシップなど、体験的な活動を取り入れた系統的・総合的な学習プログラムを実践しています。

■ 学習の成果はポートフォリオとして活用する

進路説明会、講話、体験的な活動などの多様なプログラムを設定しても、児童生徒一人一人の受け止め方は異なります。このようなガイダンスの機能を高めるためには、諸活動を通して児童生徒の考え方や態度がどのように変容したのか、的確に把握する必要があります。

この学校では、進路ノートの記述内容を評価して、前後のガイダンスと関連付けたり、個別のフォローを行ったりしています。また、ノートに記入した内容はポートフォリオとして、学習の振り返りや定着を促すことに役立てています。

［ 進路ノートの記述例 ］

○ 学習のテーマ　進路の学習に関するオリエンテーション

○ 学習して分かったこと・感じたこと

私は高校に入学してから「不安」や「焦り」を強く感じていました。部活に入りたくてこの学校を選んだものの、両立に悩み、早く自分に合った自主学習の方法を見付けなければと焦っていました。

今日の先生の話を聞いて、自分の進路について、先生方が一生懸命協力してくれるのだと分かって安心しました。厳しい口調での話も私たちに後悔してほしくないからだと感じました。「努力して入る学校に行ってください」という先生の言葉を大切にして、3年間努力したいと思いました。

私の将来の夢は、保育士か看護士になることです。そのための具体的な進学先は決まっていません。この後、夢は変わるかもしれませんが、とにかく勉強して選択肢を広くもつことができるようにしたいと思います。

○ 疑問点や調べてみたいこと

国立（公立）と私立ではどのくらい授業料などに差があるのですか。

（教師のコメント）
5／11の職業と進路の授業で詳しく説明しますね。

（教師のコメント）
自分の気持ちをこうして表現できることはとてもすばらしいことです。
高校生活に対する不安や焦りは誰でももっているものです。それを自分なりにどう処理していくかが成功の鍵となると思います。ここに書いたように、まず一生懸命やったという充実感を得ることではないでしょうか。時には リラックスしながら努力を続けてください。

将来設計能力や意思決定能力の支援に力点を置いています。

■ 個別のフォローのポイント
- 情報提供は、できるだけガイダンスの場で収集したり、主体的に調べ学習で得たりするように促す。
- 相談や個別のフォローが必要な内容を峻別する。

事例から学ぶこと

① 従来の進路指導の目標をキャリア教育の視点で見直す。
従来の進路指導の計画をキャリア教育の指導計画に移行する場合、従来の目標との違いを十分に検討することが大切です。

② 活動の成果はポートフォリオにまとめる。
キャリアは経験の積み重ねによって形成されるものです。活動を振り返り、継続して指導できるように、活動の成果をまとめたノートやワークシートは、ポートフォリオとして活用することが大切です。

解説７　キャリア教育の視点を生かして単元の指導計画を作成するポイント

単元や題材の指導計画の書式は、特に定まっていませんので、各教科や総合的な学習の時間などの指導計画に準じて作成することになります。

それぞれの教科及び領域ごとに作成する場合もありますし、いくつかの教科、領域の活動にまたがる学習プログラムのスタイルも考えられます。現在は、研究開発の段階であることから、数年間をかけて書式なども更新しながら整備していくことになります。アメリカなどの例に見られるように、包括的な発達段階に応じたガイダンスプログラムを構築するには、長期的な学校経営上の取組が必要です。

■　単元や題材の指導計画検討の手順

（１）一つの学習プログラムとしてまとめる場合には、まず、柱となる領域や教科の指導計画をもとにして作成します。中学校や高校の場合には、主に特別活動や総合的な学習の時間に位置付けられる活動が柱となる例が多いようです。

（２）単元あるいは題材の目標を設定する場合、現在の目標をキャリア教育の視点でとらえ直します。キャリア教育の視点で新たに目標を設定し直す方法と、従来の目標はそのままで、新たに目標を追加する方法とがあります。

（３）指導計画には様々な目標や評価の項目を設定しますが、どの程度具体的なレベルで設定することが適切であるかは、実際の指導や評価の場面を想定しながら検討して決めます。

（４）キャリア教育の評価では、児童生徒一人一人のキャリア発達の状況を的確にとらえ、学習の成果をポートフォリオなどにまとめて生徒に自己評価させるようにします。このためのワークシートやノートの活用は、単元の指導計画にきちんと位置付けます。また、これらの資料は、評価だけでなく、カウンセリングにも活用します。

■　単元や題材の指導計画（書式例示２）

次の例は、同時期に展開が予定されている各教科及び領域の学習内容を、単独あるいは一つの学習プログラムとしてまとめる際の書式です。

１　キャリア教育の単元名（題材名）

「・・・・」（○学年）

２　単元設定の理由

（略）

３　キャリア教育の目標

目標（キャリア教育に関連の深い目標）	キャリア教育の視点からの目標
（例） ○国語 ・相手や場に応じて、相手の意図をくみ取り、自分の意志や意見を適切に伝えようとする。 【 関心、意欲、態度 】 ○総合的な学習の時間 ○特別活動（学級活動）	（例） コミュニケーション能力 ・

キャリア教育で育む諸能力のマトリックスに示した項目をもとに設定する。

具体例を示して、評価に活かしやすい項目を設定する。

４　単元計画

次程	教科及び領域	学習活動	指導と支援（指導上の留意点）	キャリア教育で育む諸能力または評価の視点	評価方法
1	※ 単独の教科、領域の場合、省略する。	単元（題材）または学習内容「・・・」			・発表メモ （原稿、他の班の発表を聞き取ったメモ）

単元計画に評価項目に示した場合、評価項目を別に示さなくてもよい。

５　キャリア教育における具体的な評価項目

次程	学習事項及び評価項目の説明	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
1	（1）いろいろな職業 ・○○・・・・		◎		
2	（2）身近な人の職業	○	◎		

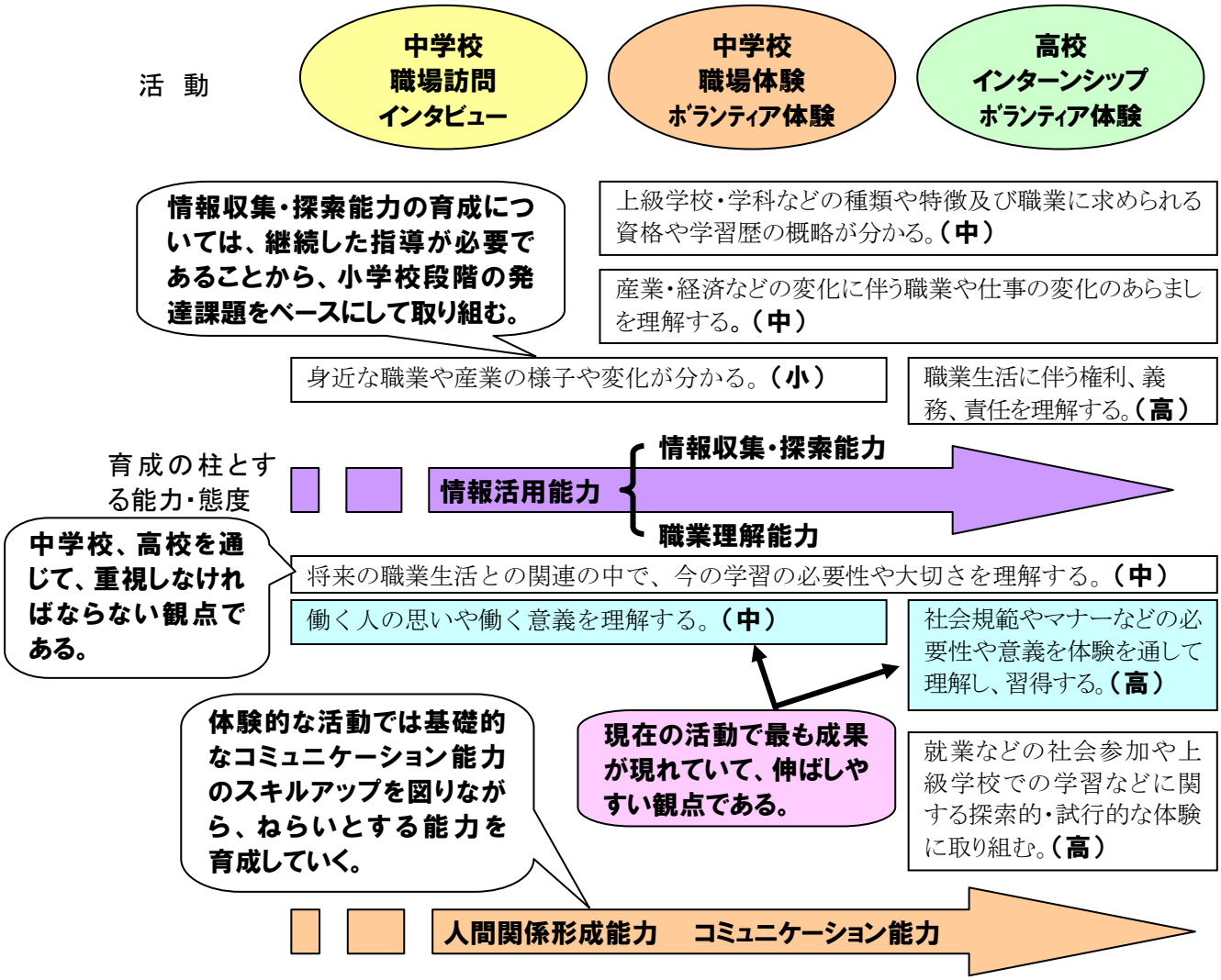
POINT 3　活動のねらいを明確にし、能力や態度に着目して体験的な活動の成果をとらえる

体験的な活動は、児童生徒が手応えや充実感を得やすく、キャリア教育実践の柱となるものです。しかし、ねらいがあいまいなまま実践に取り組んでしまったり、感覚的な評価にとどまってしまったりする例も見られます。また、手応えや充実感が得られたとしても、一過性の活動に終わってしまうといった問題点が指摘されています。体験的な活動がどのような能力や態度の育成をめざしているのか明確にするとともに、活動の前後でどのような意識の変容がみられたかを的確に把握して、記録にとどめておく必要があります。

■ 伸ばしやすい能力と伸ばしにくい能力を明らかにする

イメージ図　職場体験、インターンシップなどの体験的な活動を情報活用能力の育成を中心に見た場合

〈 ※ p.23、24 に示す小、中、高の各段階の具体的な能力や態度を引用（**小**）（**中**）（**高**）〉



事例紹介

ここでは、中学校のマイ・チャレンジ事業と高校のインターンシップの取組を例にして、キャリア教育における体験的な活動の展開のポイントを説明します。

事例 12〔中学校〕心の教育の視点を生かして社会体験活動を実践する

この中学校では、心の教育の視点から、第２学年の生徒に対して、マイ・チャレンジ事業に基づく社会体験活動を実施しています。

○ 活動のねらい（指導目標）

地域の人々との関わりを主とした社会体験活動を通して、生徒が大人の考えにふれ、共に生きる心や感謝の心を育て、自己の在り方や生き方を見つめさせます。

関連する能力 → 人間関係形成（自他の理解能力）、情報活用能力（職業理解能力）

○ 活動の留意点

・社会人としてのあいさつや言葉づかい、マナーは、日頃の生活でも心がけよう。
・体験したことや出来事は、家の人と進んで話し合うようにしよう。

関連する能力 → 人間関係形成能力（コミュニケーション能力）、情報活用能力（職業理解能力）

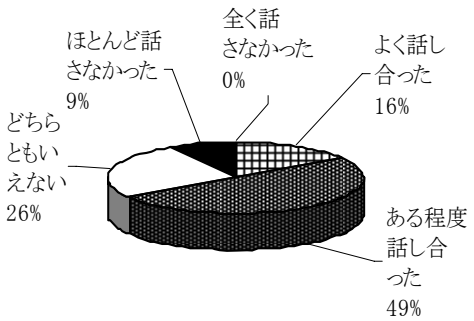
○ 活動のまとめの視点（まとめの項目）

※ 学習の深化のためには、アンケートや自己評価シートに、ねらいや活動の留意点に基づいた項目を設定することが大切です。

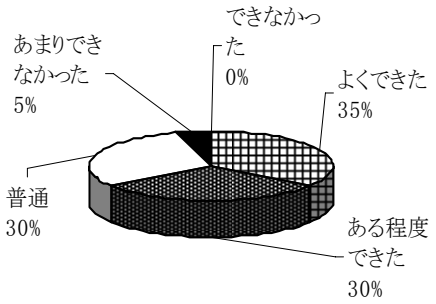
①マイ・チャレンジ活動の目的（自分）　②心に残ったこと・学んだこと・新たな発見　③大人の人と話したこと　④家の人と話したこと　⑤マイ・チャレンジの体験を今後にどう生かしたいか　⑥友達の体験から気付いたこと　⑦感想

○ まとめの回答結果・記述例

家族と活動について話し合いましたか



事業所の方々と交流できましたか



活動のねらいや指導上の留意点としてあげた地域の人々や働く人々との交流を図ることができた。また、あらためて家族とのコミュニケーションの意義をとらえ直す機会となった。

感　想

満足感	楽しくできた。
多様な体験	いろんな事ができた。
活動への興味や関心	別の活動もしてみたくなった。
社会への関心や理解	職場について分かった。社会について知ることができた。
苦労	仕事は楽かと思ったらつらかった。勤務の大変さが分かった。
充実感、苦労	すこしためになった分、疲れた。
充実感	やり遂げた気持ちでいっぱいだった。
礼儀、マナー	人として生きていく上で大切な事を学んだ(あいさつ)。
人間関係の重要性、他者への気づかい	人間関係の大切さを知った。人に気づかいをするのは、仕事では当たり前なんだと感じた。
苦労	働いている人は、こんなつらい仕事を毎日しているのかと思うと、大変だ。
活動への興味や関心	日がたつにつれて、仕事をやる楽しみが増えてきた。活動が終わったら寂しさを感じた。
活動への興味や関心	学校にいるよりも毎日楽しかった。仕事をすることは結構楽しかった。
自信、苦手意識の克服	苦手と思っていたこともやったので、苦手克服になった。
活動への興味や関心	将来の仕事を決めるのに道が広がった。また、違う仕事もやってみたい。
苦労	大人の仕事が簡単だとは思っていなかったが、一週間であんなに疲れるとは思ってもみなかった。
多様なコミュニケーション	家の大人の人以外の大人と話せたことがよかった。
多様なコミュニケーション	たくさんの人と交流ができてよかった。就職するときに役立てたい。
多様なコミュニケーション	自分から積極的に分からないことや教えてほしいことを聞いたので大人とのコミュニケーションが深まったと思う。
自信、苦手意識の克服	小さい子はあまり好きではなかったのに、保育園に行ったら好きと感じられた。
満足感、多様な体験、充実感	毎日がすごくはやく過ぎたが短い間に大切なことをたくさん学べた。 やってよかった。
多様なコミュニケーション	接客では、お客さんとのコミュニケーションをとることが大切だと分かった。
感謝	マイ・チャレンジでお世話になった方々に感謝したい。
礼儀、マナー	あいさつ、礼儀作法がとてもよくなった。
自信、苦手意識の克服	注意されたことをプラスにして頑張れた。
満足感や充実感	少しだけ大人になったような気がした。マイ・チャレンジのおかげで体力がついた。

事例から学ぶこと

① 体験活動のまとめの感想やアンケートの記述から読み取ると、活動を通して自己有用感や自己肯定感が得られていることが分かります。

② 「様々な人々とのコミュニケーション」や「他者への気づかい」、「礼儀、マナーの大切さ」や「苦労」など、活動を通して、人間関係形成能力及び情報活用能力に関わる意識や態度の変容が促されていることが分かります。

③ 活動を通して、学校での学びの重要性を言葉にする生徒は少ないようです。貴重な経験を、日々の取組に生かそうとする態度の育成につなげるためには、系統的な進路学習に体験的な活動を組み入れて展開することが求められます。

事例 13〔中学校〕地域の人々の声から社会体験活動の成果を把握する

この中学校は、地域との連携を基盤とした社会体験活動を積極的に展開しています。家庭や地域の人々と、活動を通した生徒の意識や態度の変容を共有することで、学校、家庭、地域が協働して児童生徒のキャリア発達を促すようになることが期待されています。

○ 活動のねらい（指導目標）

（１） ※ 心の教育の視点からの目標（省略）
（２）地域の人々と生徒の関係を深化させ、生徒を育む取組を地域に浸透させることにより、地域における教育力の掘り起こしを行う。

関連する能力 → 人間関係形成能力（自他の理解能力）、情報活用能力（職業理解能力）

○ 事前の活動

夏休みの課題として、「職場体験事前レポート」を作成する。

① 希望する職種を三つ選び、それらについてレポートを作成する。
② 調べる項目について、図書館などで書物を使って調べる。
③ 家族や知人などから話を聞いて調べる項目についてまとめてみる。
④ ５、６は、各自、特に調べたい項目があれば考えて、調べてみる。
○ レポートの項目
１ どんな仕事をしていますか？（ 仕 事 の 内 容 ）
２ どんな環境で働いてますか？（ 職 場 の 環 境 ）
３ どんな心がけが必要ですか？（仕 事 上 の 注 意 点）
４ 大変なことはありますか？（ 仕 事 の 難 し さ ） ５、６ 各自設定

関連する能力 →情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力）

○ 活動のまとめの視点（まとめの項目）

（１）事後反省の記録（記述による活動のまとめ）
（省略）
（２）マイ・チャレンジ事業 アンケート（選択肢）

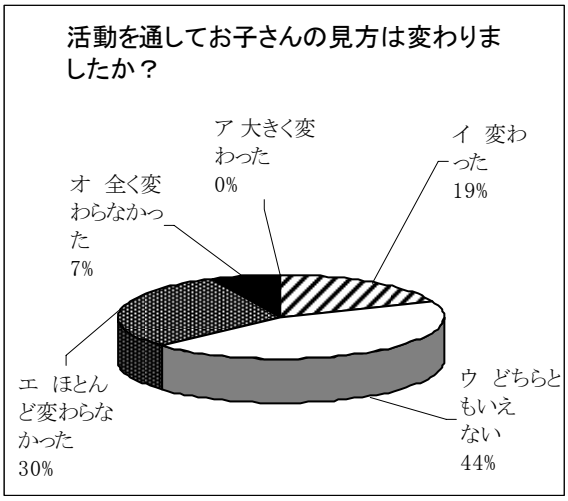
（ 保護者 ）
１ お子さんとマイ・チャレンジについて事前に話し合われましたか？
２ 期間中にお子さんとマイ・チャレンジについて話し合われましたか？
３ 活動を通して何かお子さんに変化はありましたか？
４ 活動を通してお子さんの見方が変わりましたか？

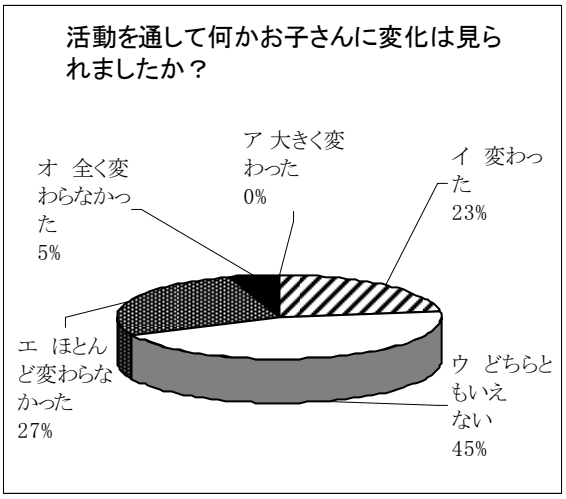
（事業所）
１ 職場体験学習に対する生徒の取組はどうでしたか？
２ 職場体験学習を通して、生徒たちに変化が見られましたか？
３ この一週間で中学生に対する見方は変わりましたか？

※ 生徒、教職員以外に、保護者と事業所にもアンケートの回答を依頼した。

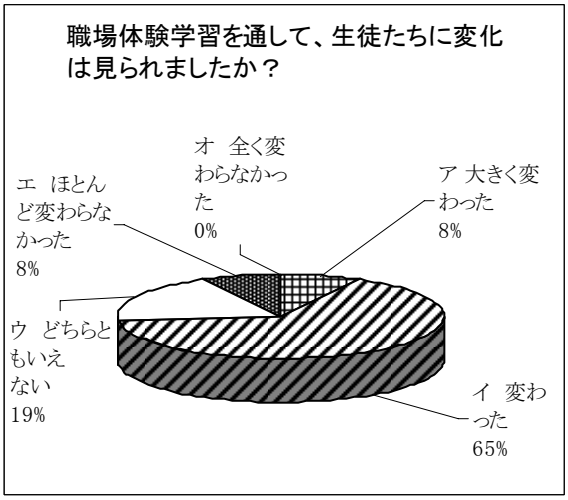
○ まとめの回答結果

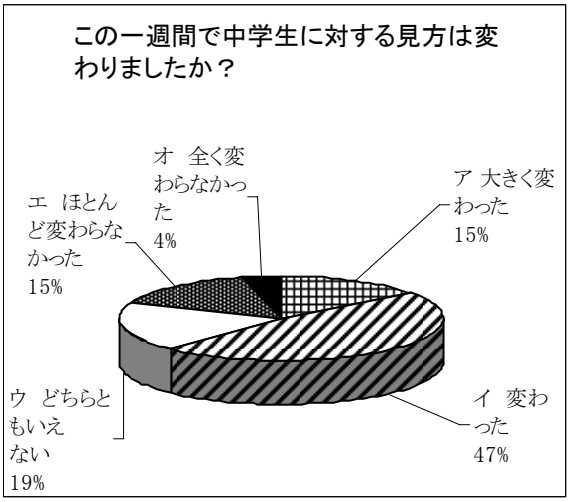
（ 保護者 ）





（ 事業所 ）





事例から学ぶこと

社会体験活動を通した生徒の変容は、中学生や高校生の発達段階の特徴もあって、保護者の前では現れにくい面もあると考えられます。むしろ、体験先の大人のほうが子どもたちの変容をよりはっきりと意識しているという面もあります。この事例では、地域の人々の声を積極的に取り上げて、成果を明らかにしています。このようにして、体験活動の成果を、家庭や地域と共有することで、その後の進路学習の発展や次年度の体験活動の改善につなげることができるようになります。

事例 14〔高等学校〕インターンシップを生かして、高校における学びの基盤となる積極性や他者と関わる態度を育成する

この高校では、第１学年の進路学習に位置付けてインターンシップを実施しています。職業人として生きていくために必要な資質・能力が、高校における学びの基盤ともなっていることを、生徒に再確認させるねらいがあります。

■ インターンシップのねらい

この高校では、生徒が体験を通して社会規範やマナーの必要性あるいは意義を実感して実践できるよう、指導しています。このような生活の基盤づくりを充実させることは、学びの充実につながるものと考えられます。

また、インターンシップにおいては、自ら考えて、積極的に行動することを重視しています。「自分だったらどうだろう？」という問いは、探索的、試行的な行動を促すもので、高校生の学習の質にふさわしい課題と考えられます。

［ 職場体験活動のねらい ］

「『職場体験学習』マニュアル」より

Ⅰ 努力目標

キャッチフレーズは 一緒に働きたいと思われる人になろう！

(1)「元気なあいさつ」と「ステキな笑顔」を忘れない！
(2)「はい」「わかりました」「すみませんでした」「ありがとうございます」などの言葉が自然にでてくるような態度を心がけよう！
(3)自分だったらどうだろう？という具体的な問いかけをしてみよう。
(4)周りの人への感謝の気持ちを忘れないようにする。日誌など記録をしっかり残し、あとになって振り返ることができるようにしよう。

視点1 「人間関係形成能力」特に「コミュニケーション能力」

自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志などを的確に理解する。

視点2 「情報活用能力」特に「職業理解能力」

社会規範やマナーなどの必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。

視点3 「将来設計能力」特に「役割把握・認識能力」

学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。

視点4 「キャリア」

キャリアは経験の累積であり、それらを事後に振り返り、理解を深める。

■ 事前の学習のポイント

生徒に、体験を通して、社会規範、マナーの必要性、意義などを実感して、実践できるようにすることを目標として意識させています。

体験中のマナーとルール

（１）自分の携帯電話は絶対に電源を切り、必ずバッグに入れておくこと！体験中は絶対に携帯電話を操作してはいけません！
（２）職場で初めてお会いする方々には、「おはようございます」「よろしくお願いします」など気持ちのいいあいさつを忘れずに。
（３）お客さんにはもちろんのこと、職場で働いている方にもしっかりした敬語を使い、「です」「ます」を使って丁寧に話そう。相手の目を見てしっかり話そう。
（４）一緒に体験する友達同士でも公の場であることをわきまえて、友達言葉（ためロ）で騒いだり、乱暴な言葉を使ったりしない！
（５）「単語」だけでなく「文」できちんと話そう。
（６）分からないことがあったら自分から聞くこと。指示待ちではいけません。

■ 評価のポイント

学習の成果を次の（１）、（２）、（３）の資料にまとめたものを評価しています。具体的な評価票を明示することで、体験に臨む態度の育成が図りやすくなると考えられます。

（１）事前及び事後にわたって学習ノートに記入したもの
・各自「学習ノート」の『職場体験学習　日誌』に毎日記入すること。
・記録した日誌は、体験先の職場の方に毎日提出して「確認印」をいただくこと。
・質問票にある質問の回答を学習ノートに記入すること。
（２）職場体験実施報告書（所定の用紙）
（３）評価票
※　次のような評価票を体験先にお願いしてあります。
※　生徒自身も同じ項目で評価します。（自己評価）
○　次の項目①～④それぞれについてＡ～Ｃの３段階評価をして右の名簿にしたがってご記入してください。

評価項目	評　価　内　容	良い	普通	悪い
①出欠状況	・決められた日数休まずに参加できたか。 ・決められた時刻に出社、退社したか。	A	B	C
②体験状況	・素直な態度で指導を受けていたか。 ・熱心さや真面目さがあったか。 ・協力的な態度であったか。	A	B	C
③服装、応対	・服装や身だしなみに気を付けていたか。 ・言葉づかい、応対はきちんとできたか。	A	B	C
④総合	・以上、総合してどうだったか。	A	B	C

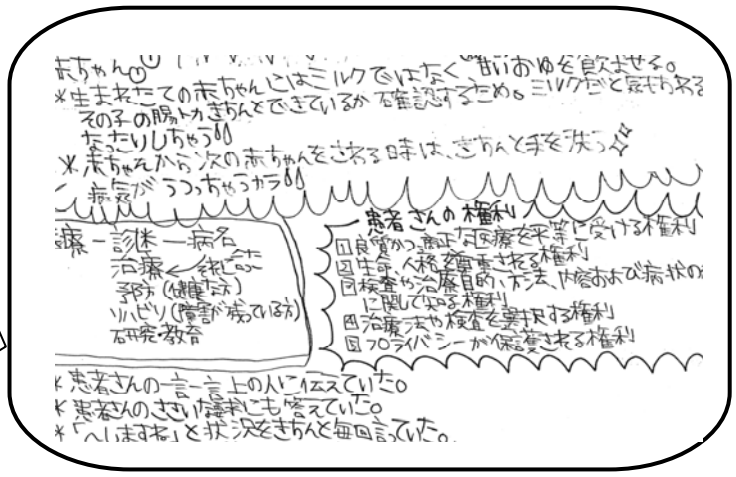
■ 活動中及び事後の学習のポイント

日誌に一日一日の活動の様子を記録したり、考えたことや気付いたことを書きとめさせたりすることは、そのときの振り返りを促して、より体験を充実させます。さらに、事後に報告書をまとめる際に活用するとともに、その後の進路の選択や決定のよりどころとすることができます。

『職場体験学習　日誌』の記入例　　（ **1** 日目）

１７年１１月１日（火）	体験場所	○　○　○　○　病　院

今日の記録



箇条書き、あるいは図を書き加えるなど、自由な表現方法で記録しています。

今日の感想

今日は、初めて看護の体験をしてドキドキしていました。あこがれのナースキャップもかぶりました。今日は、緊張して質問ができなかったけど、いろいろな患者さんと接していて、看護師は忙しくせわしない仕事だと感じました。でも、要求に応えた後の患者さんの「ありがとう」という一言で、私の中で看護師は「たいへんな仕事」というイメージから、「よろこばせるための仕事」というイメージに変わりました。

今日の学習について自己評価しよう	・関心、意欲はあるか。 ・授業（参加の）態度はよかったか。 ・理解することはできたか。	A・Ⓑ・C Ⓐ・B・C Ⓐ・B・C	確認印

事例から学ぶこと

体験先からの評価としては、中学校段階では、「言われたことをきちんとやる」ということでも十分に認められますが、さらに、高校段階では、「自ら積極的に指示を求めるような姿勢や行動を示す」ことが求められます。このことは、学校での学習にも生かされるものです。本事例では、社会でも大切なことが学習の基盤となることを実感させようというねらいがあります。

事例 15〔高等学校〕生徒の主体的な参加意欲を重視してインターンシップを実施する。

この高校では、生徒に対し、多様な体験活動への積極的な参加を促しています。その一つとして、第２学年の希望生徒を対象にインターンシップを実施しています。

■ 進路学習展開の基本方向とインターンシップの位置付け

（ＰＴＡ総会資料より）

本年度の最重要課題と具体策

勤労観や職業観を育む

・「職業に就く」ということは、生活を支える経済的基盤をつくるばかりではない。
・職業を通して自分自身が成長し、さらに広く社会への貢献へつながっていく、生涯を通して関わる最も大切なことの一つである。

自ら積極的にキャリア・アップを図ろうとする態度の育成を重視しています。

各学年の概要

【 ２年生 】

夏休み中に、全員がそれぞれに何かしらの「体験学習」をし、報告をしていただきます。また、昨年度に引き続いて「インターンシップ」を希望者に対して実施します。７月下旬の５日間です。さらに、各種の説明会やオープン・キャンパス、体験型研修に積極的に参加させてください。

体験を通して自分の希望や将来設計に対する自信と確信をもてるようにする。

■ インターンシップのねらい

（１）進路に関して学習している内容を、実際の職場で体験し、職業人に求められる勤労観や職業観を体感して、職務遂行に伴う倫理観を、体験を通して学ぶ。

（２）体験を通して、地域企業への理解を深め、地域に貢献できる素地をつくる契機とする。

（３）保護者や学校の教職員以外の大人と接することで、異世代間コミュニケーションの能力向上を図る。

（４）就業現場においての実践的な知識や技能に触れることで、学校での学習の意義を再確認する。

※ 高校段階にふさわしい発達課題を設定します。

就業などの社会参加や上級学校での学習などに関する探索的・試行的な体験に取り組む。

■ インターンシップによる生徒の意識の変容

○　インターンシップに関するアンケート［第２学年 23 名］

（各項目の回答数／参加者数）

項　　目	活動前	活動後
参加することへの期待と満足度	○　参加することをどう思いますか。 〔選択〕 ア　是非参加したい　(16／23) イ　参加したい　（７／23) ウ　参加したくない　（０／23)	○　参加してどう思いますか。 〔選択〕 ア　大変よかった　(18／23) イ　よかった　（５／23) ウ　よくなかった　（０／23)
学びへの期待と成果	○　どのようなことが学べると思いますか。 〔自由記述〕 ①働くことの意味、大切さ、楽しさ (11) ②人間関係、異世代間のコミュニケーション（５） ③仕事の内容、社会勉強（４） ④職業適性（４） ⑤社会のルールやマナー（３）	○　学んだことは何ですか。 〔二つ選択〕 ア　働くことの大切さ（６） イ　働くことの厳しさ（３） ウ　仕事に関する勉強の必要性（0） エ　体力の必要性（４） オ　あいさつ、言葉遣いの大切さ（9） カ　身だしなみの大切さ（０） キ　時間を守ることの大切さ（4） ク　人間関係の重要性（７） ケ　学校と社会の違い（６） コ　企業の役割、責任の重さ（2） サ　働くことの楽しさ（１）
働く目的	○　働く目的は何だと思いますか。 〔二つ選択〕 ア　自分の能力を試すため（４） イ　自分を成長させるため（８） ウ　楽しい生活を送るため（９） エ　経済的に自立するため（15） オ　経済的に豊かになるため（７） カ　会社の発展のため（１） キ　社会に奉仕するため（２）	○　働く目的は何だと思いますか。 〔二つ選択〕 ア　自分の能力を試すため（２） イ　自分を成長させるため（11） ウ　楽しい生活を送るため（10） エ　経済的に自立するため（10） オ　経済的に豊かになるため（７） カ　会社の発展のため（２） キ　社会に奉仕するため（４）

働くことの多様な側面に気付くと、働くことに対するイメージが具体的になったり、回答も多様化したりします。

事例から学ぶこと

①　現実的な理解を促すこと

小学校段階と異なって、中学校や高校の段階になると、夢やあこがれだけで将来の生き方や進路を考えることはできません。働くことに対する現実的、具体的な理解が求められます。

②　個々人の勤労観や職業観

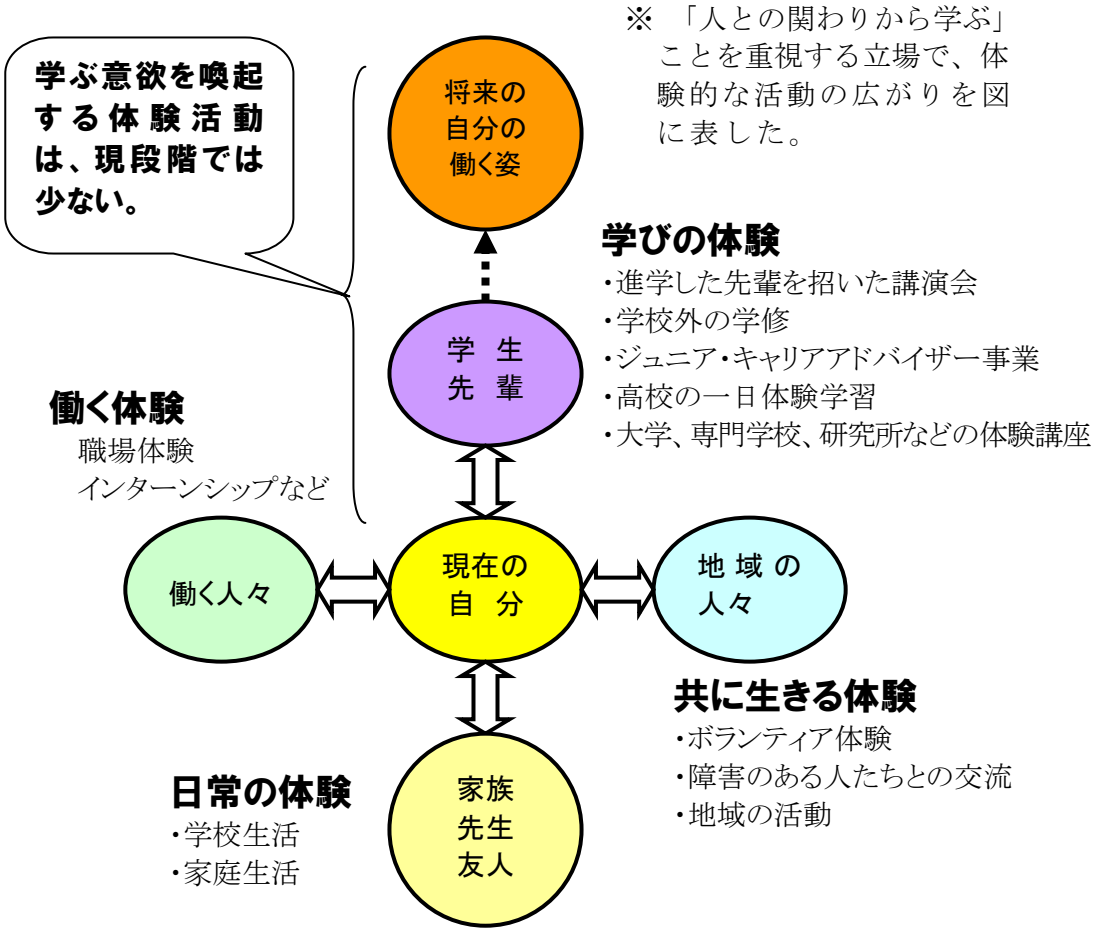
勤労観や職業観については、その人なりの個性の部分と、多くの人々に共通する部分とがあることに気付かせることが大切です。

解説８　キャリア教育における体験的な活動の広がり

キャリア教育では、幅広い体験活動を通して、キャリア発達を促します。職場体験やインターンシップは、働く人々の姿を通して、仕事の内容を直接知ることができる有意義な活動です。また、社会に貢献することをより重視するボランティア活動や、職場以外にも、家庭や地域で役割や責任を果たす活動もあります。また、希望の仕事に就くため真剣に学んでいる学生や先輩たちの姿に触れるような、学びの体験活動も意義あるものです。

多くの中学生、高校生が、さらに上級学校で学ぶ現状からも、学習や経験を重ねて資質・能力を高めていくことが不可欠です。あこがれているだけでは希望の仕事には就けません。学ぶ必要や、資格をとるための努力が必要なこともあります。今後は、そうしたことを実感できる、学びの体験活動を含む学習プログラムの開発が期待されます。

■　キャリア教育における体験的な活動の広がり



■ キャリア教育にあたって注目される事業や活動

文部科学省だけでなく、関係省庁、都道府県、さらに地域が協力して、新たな試みが進められています。従来から行われている体験的な活動に広がりをもたせ、さらに充実させるために、こうした取組に注目していくことが大切です。

ジョブカフェ

厚生労働省と経済産業省が推進する事業で、キャリア・カウンセリングから研修、就職あっ旋まで、若者の就業を支援するワンストップサービスセンター（通称：ジョブカフェ）を設置して、若年者の雇用対策を充実させる事業です。高校生のインターンシップの推進にも当たっています。ジョブカフェは都道府県が設置しますが、運営やプログラム開発を民間委託する例もあり、関係省庁が縦割り行政の壁を破って協力、支援することになっています。

○ 栃木県では「とちぎ就職支援センター」がその機能を担当しています。
宇都宮市本町3－9　県庁南庁舎2号館(本町合同ビル)1階　TEL　028－623－3226

インターンシップ、デュアルシステム

インターンシップとは、産業の現場で「生徒が在学中に自分の学習内容や進路に関連した就業体験をする」ことです。正規の学校教育活動の一つで、単位として認定することもできます。すべての高校生にとって、産業や職業の現場を知ることは、将来の生き方や進路を考える上で有意義なことです。

デュアルシステムとは、ドイツの職業学校における職業訓練制度で、週に数日程度職業訓練に充て、企業で実際に働きながら職能を身に付ける制度です。就業期間分の単位が認められ、給与も支払われています。平成 17 年度から文部科学省の施策として推進されている「日本版」は、職業意識や勤労観の育成に重点を置き、卒業後の進路と切り離しているのが特徴です。他の都府県では、学校と連携した企業において、10 日間程度のインターンシップにはじまり、２か月から４か月程度の長期就業訓練へと就業訓練を段階的に経験することにより、実践的な技術や技能を身に付ける制度を導入した例があります。

○ 厚生労働省・日本版デュアルシステム
http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/syokunou/dual/index.html

ジョブシャドウ

働いている人の後ろに張り付いて仕事を体験したり、見聞きしたりすることによって、実際の職務の在り方や勤労について学ぶことができる活動です。企業の経営のように、中学生や高校生では体験が難しい職務について理解するのに適しています。

YES-プログラム

Youth Employability Support Program（若年者就職基礎能力支援事業）

企業が若年者の就職に関して特に重視している「コミュニケーション能力」、「職業人意識」、「基礎学力」、「ビジネスマナー」といった就職基礎能力の修得を支援することを目的に、厚生労働省が創設した事業です。

就職に関わりの深い基礎能力の領域ごとに、厚生労働大臣が認定した講座や試験について修了または合格し、あわせて情報、経理、語学関係の資格（別途定められているものに限る）を一つ以上取得することにより、厚生労働大臣名の「若年者就職基礎能力修得証明書」の交付を受けることができます。

○ http://www.mhlw.go.jp/general/seido/syokunou/yes/

ジュニア・キャリアアドバイザー

専門高校あるいは学科の高校生が、学習で得た知識や技能をもとに、小学生や中学生に野菜の栽培やものづくりを指導することにより、小学生や中学生の働くことへの関心・意欲の醸成を図るとともに、高校生の勤労観や職業観及びコミュニケーション能力を育成しようとする事業です。

キャリア・スタート・ウィーク

子どもたちの勤労観、職業観を育てるために、中学校において５日間以上の職場体験を行う学習活動が、文部科学省の施策として平成 17 年度から推進されています。「キャリア・スタート・ウィーク」は、子どもたちが働くことの喜びや厳しさを学び、学習に対する意欲を向上させるための貴重な体験となります。本県では、すでにマイ・チャレンジ事業が定着していますので、活動の成果をキャリア教育の視点から検討して、より質の高い活動にしていくことが期待されています。

○ リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/019/001.pdf

中学生マイ・チャレンジ事業

栃木県教育委員会が「心の教育」の一環として推進している事業で、中学生がまとまった一定の期間、学校を離れ地域に出て人々との関わりを主とした社会体験活動を行うものです。平成 12、13 年度から「マイ・チャレンジ推進事業」をパイロット事業として実施して、平成 15 年には、県内の約 85% の中学校２年生が、５日間連続した社会体験活動を行うまでに広がりました。

平成 16 年度からは、名称を「中学生マイ・チャレンジ事業」と改め、学校や地域の特性を生かした活動ができるよう改善することにより、地域や家庭との連携、協力による中学生の社会体験活動を一層促進することを目指しています。

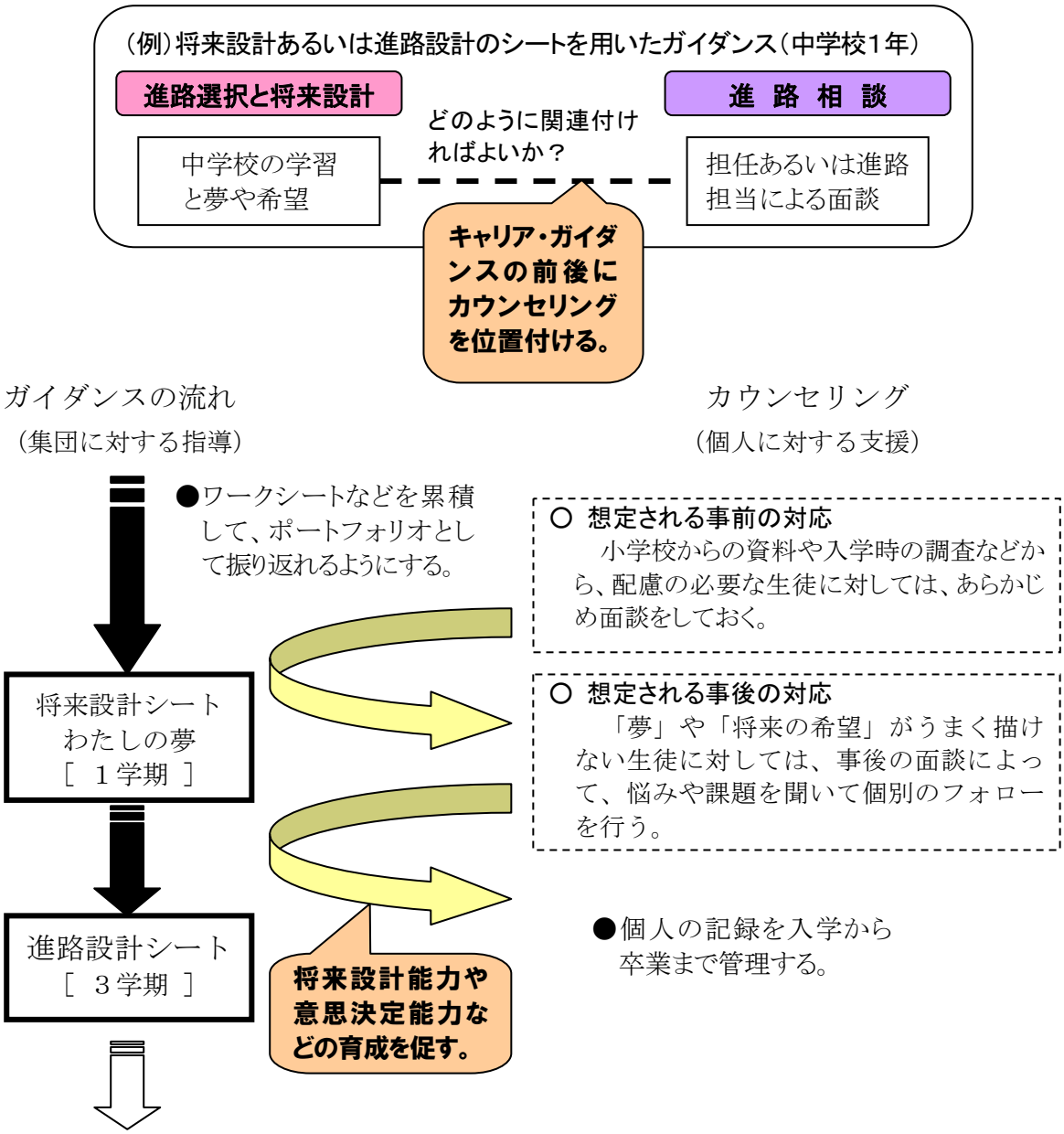
○ http://www.pref.tochigi.jp/gakkou-kyouiku/gimu/mychare/index.html

POINT 4　ガイダンスとカウンセリングとをつなぐ

進路指導においては、ガイダンス的な要素が強いため、心理面も含めて、生徒の側に受け入れる準備が整っていないと、情報をどのように活用したらよいか分からず、円滑に進路学習が進まないケースもみられます。そこで、キャリア・カウンセリングを行うことにより、生徒の心理面にアプローチし、課題を明確化させることが期待できます。

カウンセリングは、ガイダンスの後のフォローだけでなく、ガイダンスの前段階にも位置付けることで、補完的な役割を果たすことができると考えられます。

イメージ図　キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングの関係



事例紹介

ここでは、進路希望が似ているなど、共通の志向性をもった数名の生徒からなるグループを編成して行う、グループ・カウンセリングの実践を紹介します。

事例 16〔高等学校〕進路ガイダンスの一環としてグループ・カウンセリングを実践する

この高校では、２年次からのコース選択に向けたガイダンスの一環として、グループ・カウンセリングを行って、個別支援を試みました。

■ グループ・カウンセリングのねらい、実施形態、進め方

ここでは、上越教育大学の三村隆男助教授が、その著書の中で紹介しているボード・カウンセリングの手法をもとに実践しました。

『キャリア教育入門　その理論と実践のために』（実業之日本社）

○ ねらい

多くの学校で行われている面談は、学級やホームルーム単位で担任が個別に指導するケースがほとんどです。これに対し、グループによるキャリア・カウンセリングは、学級やホームルームの枠を超えて、同じような意識や進路希望をもった生徒同士で集団をつくり、キャリア・カウンセリングを行うという点で、従来とは異なる新しい手法と考えられます。

○ 実施形態

（1）構成メンバー

・共通の分野を希望、あるいは志向する生徒数名。

・ファシリテーター役の教師１名。

・記録や進路情報に関する質問への対応のため、アシスタント役の教師が参加する場合もあります。

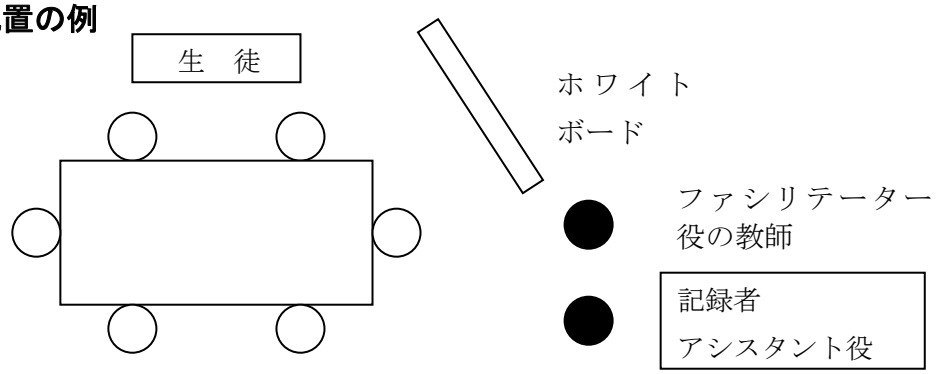
（2）準備

・職業レディネステストの結果を持参させます。自己採点したものを持参させる方法のほか、自己採点を適宜この活動の一部に取り入れることも可能です。

・ホワイトボード（ペンは３色）、名札（呼んでほしい名称をあらかじめ書かせます。）

（3）所要時間　：　60分

（4）会場及び配置の例



○ 進め方

以下の進め方はあくまでも一つの例であり、適宜アレンジが可能です。

① ボード・カウンセリングの開始を宣言（ファシリテーター）（３分）

・話し合いの目的を説明する。
・目的を確認する。

> 進路実現のためには、どのようなことを明確化すれば学習に取り組みやすいのか整理する。

・ここで話し合われた個人的なことは、この場だけにとどめる。
・積極的に発言するが、個人攻撃や揶揄は避ける。
・感情的にならない。
・他者の発言を傾聴する。
・最後に感想を話してもらうので、気付きや感情の動きを大切にして覚えておく。

② 参加者の信頼関係づくりを兼ねた自己紹介（５分）

・緊張をほぐし、安心感をもって、効果的な話し合いが展開できるようにする。

→ はじめの生徒「～の好きな～です。理由は～だからです。」
→ 次の生徒「～の好きな～さんの隣の～が好きな～です。理由は～だからです。」以後続ける。

③ 課題の開示（１０分）

・参加者全員から、直面している課題（進路選択）に対する不安、悩み、疑問を端的に挙げてもらい、ファシリテーターがボードに記入していく。
（それぞれ発言者の名前を青で入れる。）

④ 課題の説明（１５分）

・ボードに書かれたものについて、一人ずつ発表してもらい、それに対し、他の参加者は質問、意見を述べる。ファシリテーターは、受容、共感、質問、整理を繰り返す。うまく発言できない生徒へは声かけをし、安心して参加できるよう配慮する。
・同じような内容でも、背景は異なるので、全員に発言してもらう。参加者は受容あるいは共感の姿勢で傾聴する。

⑤ 意見交換及び整理（１５分）

・出された意見を聞きながら問題を整理し、発言した本人がある程度解決されたと認識されたものには赤で線を引く。残った問題に対し、さらに意見交換をし、整理する。所定の時間が経過したら、そこで終了とする。課題が残ってもよい。

⑥ まとめ（７分）

・一人一人に感想を述べてもらい、参加者でシェアリング（分かち合い）をする。各自の気付きを大切にし、次の行動につなげる。ファシリテーターは、生徒が課題に取り組むにあたって、参考になる情報があれば提示してもよい。

⑦ 振り返り用紙記入（５分）

・話し合いを通して感じたこと、気付いたことを各自整理する。

○ 実施にあたっての留意点

この話し合いの中では、生徒は少なからず自己開示を求められます。何らかの理由（いじめにあった経験がある、周囲の目を過剰に気にするなど）で自己主張をためらう生徒には、グループ・カウンセリングを無理強いしない配慮が必要です。このような生徒には、個別相談を継続して、参加できるようになってから導入を考えた方がよいでしょう。また、ファシリテーター役の教師は、話し合いの途中で話題がそれたり、特定の参加者が非難されたりした時は、即座に介入し、円滑に話し合いが展開されるよう配慮します。

適切な実施人数は、ファシリテーター役の教師１名に対して、５～７名程度と想定されます。なお、受験期はライバル意識が強くなることから、１学年での実施が効果的と考えられます。

○ 実施後の留意点

参加者の中には、新たな疑問や不安が生じる場合もあるので、その後のサポートを怠らないようにします。特に、振り返り用紙を通して心情を把握するとともに、課題が明確化された場合は、その解決に向けて具体的な方策が見いだせるよう援助することが大切です。また、個別の相談が必要な場合には、できるだけ早い時期に実施できるよう、日程、担当者の調整をします。

○ 発展の方向性

共通の課題が見えた場合は、それぞれが研究を進め、分かったことを次回持ち寄ります。進路研究を進める上で、教師からのガイダス的なアプローチが必要となることがあります。資料の提供やインターネットを活用した情報収集の仕方をはじめとし、個々の生徒に応じた適切な援助が求められます。その際に、校内の教職員のみならず、校外の人材も含めて、誰が援助資源となり得るのかを判断し、つながりを付けていくことが大切です。あくまでも生徒主体というスタンスで進めることで、進路意識の高揚を図りますが、進路指導のガイダンスの機能を充実させるきっかけとなることが期待されます。

以後、このグループ・カウンセリングは必要に応じて開催しますが、これに依存するだけでなく、生徒間で日常的に自主的な情報交換がなされ、互いに視野を広めつつ、それぞれが自己実現に向けて学習に取り組んでいくことを目指します。

振り返り用紙

実施日　　月　　日

１年　　組　　番

今日のグループ・カウンセリングはあなたにとってどうでしたか？ふりかえってみましょう。

Ⅰ．あてはまる数字に　○　を付けてください。

１．リラックスして参加することができたと思いますか

4	3	2	1
とてもそう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない

２．自分の考えや気持ちを言うことができたと思いますか

4	3	2	1
とてもそう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない

３．自分の考えや気持ちを他の人に分かってもらえたと思いますか

4	3	2	1
とてもそう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない

４．他の人の考えや気持ちが分かったと思いますか

4	3	2	1
とてもそう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない

５．自分にとっての課題が見えてきたように思いますか

4	3	2	1
とてもそう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない

Ⅱ．今日のグループ・カウンセリングを通して、気付いたこと、感じたこと、考えたことなどを書いてください。自分なりの課題が見えてきた人はそれについても書いてください。

■ 実践の資料1　グループ・カウンセリングの概要

○ 第1回　平成 17 年 11 月 11 日　ファシリテーター役1名、記録者1名、教員の参加者4名

※　医療・看護・福祉などの分野を志望している生徒 13 名。今回は、希望した生徒を全員参加させたため、６名と７名の二つのグループを編成した。

Step1　来室順に名札を書いてもらう。(フルネーム、好きな色のマジックで)

1 メモ、写真撮影の了解を得る　→ 2 担当者の自己紹介(名札は生徒と同じように作成)
→ 3 留意点の確認　→ 4 流れの説明　→ 5 参加者自己紹介
→ 6 テーマの提示

進路実現のためには、どのようなことを明確化すれば学習に取り組みやすいのか整理する。

→ 7 一つずつ挙げてもらう。
・生徒の様子(発表者を指定したらためらいの表情。となりと顔を見合わせる様子)
→ 8 近くの2、3人で2分程度、話してもらう。
→ 9 その間にホワイトボードにテーマを書く。

Step2　グループごとに「明確にすべき課題」発表してもらう。(司会者が板書)
・生徒の様子 (この頃から自由に話し始めた)

Step3　考えていく上でのアイデアを集める。(情報の入手先、相談する先生、調べる方法)

Step4　まとめ

1 ファシリテーターの説明

・残った課題は調べてみる。
・一人一人の状況が最も分かっている先生に相談する。
・せっかく会った仲間どうしなので、廊下でも積極的に声かけをしたり、情報交換の機会をもったりできるとよい。

→ 2 感想を述べる(一人ずつ)　→ 3 振り返り用紙記入
→ 4 レディネス・テストの説明(12月期末試験後に実施する。)
→ 5 最後にねぎらいの言葉　お互いに拍手　→ 終了

○ 実施後の教員によるミーティング

① 成果:「共感」という言葉が多くの生徒から引き出せた。従来のガイダンスやカウンセリングではなかなか得られない手応えを感じることができた。

② 方法について気付いた点
・あるクラスの参加者だけが多いような偏りがあると、参加者の少ないクラスの生徒が気後れする傾向が見られた。

③ 今後に向けて
・流れは簡単であるが、生徒から発言を引き出すために、多少慣れが必要である。
・担当者は担任でない方がよいかもしれない。
・今日の様子から次回も生徒は参加するのではないか。
・生徒は進路に関する理解が不十分なので、ガイダンスとしても十分意義がある。
・2年生でも実践は可能と思われる。

○ 第2回　平成17年12月14日　　ファシリテーター役1名、記録者1名、教員の参加者1名

※　医療・看護・福祉などの分野を志望している生徒３名。今回は、カウンセリングとしての効果をはっきりさせるため、前回よりも少人数で実施した。

Step1　来室順に名札を書いてもらう。(前回使用したもの)

1　導入

「前回から今回の間に変わったこと、調べたこと、話したことは？」
⇒「ない。期末テストがあったので･･･」

2　テーマの提示

看護･医療系の職業に求められる資質･能力について、話し合いを通し考える。

3　流れの説明

今回は生徒間の話し合いを中心に展開することを伝える。

Step2　話し合い

①「看護」、「医療技術」、「介護サポート」のそれぞれの分野に抱くイメージ、求められる資質や能力はどんなものか各自で考えさせ、まず、一人一つずつ具体例を挙げてもらう。
- ･外見、資質、出会った人から受ける印象など、できるだけ数多く具体例を出してもらう。
- ･一枚の付箋紙に一つずつ具体例を書かせる。
- ･まず、看護について書けたらホワイトボードに貼り付けさせる。
  (あとで説明してもらうので、一人一人のブロックに分けて貼る。)
- ･同様に、医療技術、介護サポートについても考えさせる。

②　看護から順に各自が考えた内容を発表していく。
　他の人と同じ意見であっても、そう考える理由はそれぞれ違うので、すべて発表してもらい、一人一人の考えを大切にする。

③　司会者は、参加者がそのように考える背景について、適宜質問をし、イメージの明確化を図る。

④　医療技術、介護サポートについても同様に進める。

⑤　すべて終了したら、付箋紙を整理する。
- ･共通するものを集める。(参加者に出てきてもらい、話し合いながら整理してもらう。)
- ･司会者は、生徒の発言や追加の意見を聞きながら、ホワイトボード上で、意見が書かれた付箋紙を貼りかえたり、カテゴリーごとにまとめたりする。

Step3　まとめ

1　ファシリテーターの説明

- ･職業に求められる資質や能力は多様である。
- ･自分の資質･能力も幅広くとらえ、伸ばしていくことが大切である。
- ･職業レディネス･テストの結果と自分の予想、希望とのギャップへの対処についてもふれる。
- ･自分の悩みや不安は、当面の目標を明確にし、具体的に取り組むことで解決の糸口が見いだせる。

→ 2　各自感想を述べる　→ 3　振り返り用紙記入　→　5　ねぎらいの言葉(終了)

○　実施後の生徒の意見

- ･人数は、10名を超えると、自分の意見が出しにくい。
- ･人数が少ないので、自分の気持ちをより素直に表現できた。

■ 実践の資料2 グループ・カウンセリングの振り返り用紙から

（１回 ⇒ ２回の違いを比較した。）

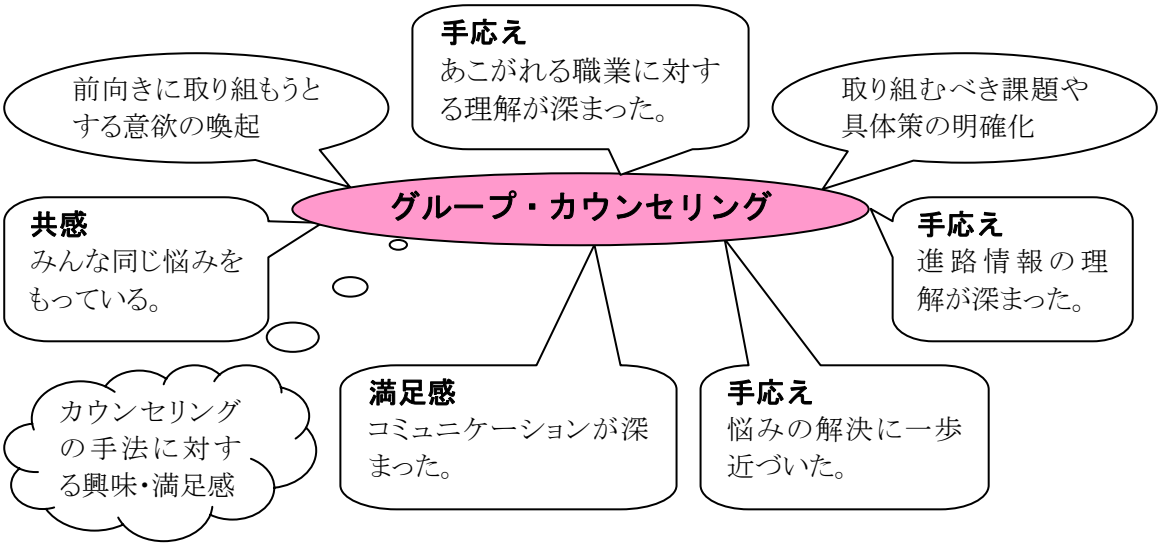
Ⅰ．あてはまる数字に ○ を付けてください。

	Ａさん	Ｂさん	Ｃさん
１．リラックスして参加	３⇒３	３⇒３	３⇒４
２．自分の考え、気持ち言う	３⇒４	３⇒３	２⇒４
３．自分の考え、気持ち分かってもらえた	２⇒４	４⇒４	２⇒４
４．他人の考え、気持ち	２⇒３	４⇒４	３⇒４
５．自分の課題	２⇒３	３⇒４	３⇒３

Ⅱ．今日のグループ・カウンセリングを通して、気付いたこと、感じたこと、考えたことなどを書いてください。自分なりの課題が見えてきた人はそれについても書いてください。

	1回	2回
Ａさん	皆、同じようなことを思っていた。共に励ましあうことができそうだ。	看護に関連することの視野が広がってよかった。
Ｂさん	同じ進路に進もうとしている人たちと悩みや今考えていることを打ち明けあうことができてよかったと思います。これからはもっとたくさんの学校を調べて自分に合った学校をみつけられたらいいなと思います。	同じ職業を目指している人たちと話すことができてよかったと思います。これからは勉強だけでなく、その他にも必要なやさしさなどを学びたいです。自分で動くことのできない祖母の面倒をみているおじの手伝いをもっとしていろいろと学んでみたいと思いました。
Ｃさん	グループ・カウンセリングを初めて受けて、思っていたものとはとても違いました。私自身もっと積極的に取り組むことができればよかったと思います。内容では、もっと他の意見もかわせたらいいと思いました。まだ自分の将来について決まっていないので考えたいと思います	前回に比べると、少人数だったのでとても参加しやすく感じました。自分の考えを数多く言えたし、友達の意見もいろいろ聞けました。 自分の意見を紙に書いて貼ったりしたり、いろいろな工夫がされていたので、とてもよかったです。まだ自分の進路は、はっきり決まりませんが２回のグループ・カウンセリングを通して、今までにはなかったものが得られて本当によかったです。ありがとうございました。

（記述の特徴：カテゴリー分け）



事例から学ぶこと

相談と聞くと、個別の指導・支援という思い込みがありますが、グループの人数を増やすと、ガイダンスの面を強く出すことができます。また、人数を減らすと、カウンセリングの面を強く出すことができます。目的に応じて、ガイダンスやカウンセリングの構成メンバーを柔軟に変えていくことも、指導の効果を高めることになります。このような実践によって、担任だけの進路相談に任せてしまう指導体制を変え、進路指導部が組織的に動く体制づくりがしやすくなります。

Ⅲ　キャリア教育に関する文献や資料

ここでは、本冊子作成のために、引用または参考にした文献や資料について、コメントを付記して紹介します。

栃木県では、今後の教育施策の方向性を示す「とちぎ教育振興ビジョン（二期計画）」を策定しました。本章では、キャリア教育の推進にかかる県の施策の概要を紹介します。

1　「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」より

文部科学省（平成 16 年1月）

文部科学省が、初等中等教育における「キャリア教育」を推進していくための基本的な方向などについて検討して、学校や教育関係者などにおける「キャリア教育」推進の指針となる提言をまとめたものです。

○（本文）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002.htm

○（骨子）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801.htm

○（リーフレット）http:／／www. mext.go.jp/a_menu/shotou/career/04111901.htm

2　中学校職場体験ガイド

文部科学省（平成 17 年 11 月）

文部科学省では、平成 17 年度から、中学生を中心にした５日間以上の職場体験とその支援体制を整備するための「キャリア・スタート・ウィーク」を、全国 138 地域で実施しています。それにともなって、中学校でのキャリア教育の中核である職場体験を通した学習活動の、一層の推進を図るために参考資料として取りまとめたものです。

○ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026.htm

〈 参 照 〉文部科学省＞進路指導･キャリア教育　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm

3　『キャリア教育入門　その理論と実践のために』

三村隆男：著　出版社：実業之日本社（平成 16 年９月）

キャリア教育の歴史、理論的背景そして進路指導とのかかわり、さらには学校現場でのキャリア教育の立ち上げ方から具体的な実践事例、授業展開例などを掲載しています。

4　『図解　はじめる小学校キャリア教育』

三村隆男：編 出版社：実業之日本社（平成 16 年 11 月）

小学校段階のキャリア教育を実践するための手引きです。各校で教科、道徳、特活、生活科・総合などを通して地道に取り組まれている実践をもとに、子どもたちの能力や態度を少しずつ引き出し、生きる姿勢を育む考え方が具体的に紹介されています。

5　高校生のインターンシップ

栃木県教育委員会・栃木就職支援センター

栃木県では、関係団体と連携し、専門高校ではすべての生徒が、総合学科や普通科でもできるだけ多くの生徒がインターンシップを体験できることを目指して、インターンシップに取り組んでいます。この資料は、受入れ企業の理解や協力を得るため、地域や産業界、関係者向けに作成した普及啓発用のリーフレットです。

○ http://www.tochigi-work2.net/shisaku/kigyo/intern/index.html

6　職業情報・就職支援ツール　職業ガイダンス支援サイト　職業データベース

独立行政法人　労働政策・研修機構

高校生から一般向けまで、様々な雇用や職業に関する情報が紹介されています。

〈 参 照 〉労働政策研究･研修機構　http://www.jil.go.jp/index.htm

■ 「とちぎ教育振興ビジョン（二期計画）」より概要

栃木県教育委員会

○ http://www.pref.tochigi.jp/kyouiku/nextvision/index0.html

第２部　各論

第１章　自立する力と豊かな心をはぐくむ学校教育の実現

■　自立意欲と社会性の育成

若者の就労形態をみると、フリーターやニートの増加、高水準で推移する早期離職率等の問題があり、適切な対応が喫緊の課題となっています。その原因としては、求人の減少や求職と求人の不適合の拡大、雇用環境の変化などがある一方、若者の職業に対する意識や価値観の多様化、勤労観、職業観の未成熟、進路決定を先送りする傾向などや、人間関係を築く力などの社会性が育っていないことも、原因として指摘されています。

このようなことから、学校教育においては、児童生徒一人一人に、発達段階に応じた望ましい勤労観、職業観を育てるキャリア教育の推進が求められています。さらに、キャリア教育の視点から主体的に進路を選択決定する能力や態度を育成する進路指導の充実も必要です。

また、社会性の育成を図るため、社会体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動や、学級及び異年齢の集団活動を通して、友達や様々な立場の人々と積極的にかかわる体験を充実させます。特に特別活動では、目標に「集団の一員としての自覚を深め」「協力してよりよい生活を築こうとする」とあるように、社会性の育成をねらいとしています。考え方や性格、体力や能力が異なる子どもたちが折り合いをつけながら共に生活する、「学校ならではの学びの体験」を重視していきます。

（1）キャリア教育の充実

社会人・職業人として自立に必要な意欲や態度、能力を育成します

児童生徒の発達段階に応じ、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間において、勤労意欲の醸成や、社会人・職業人として自立していくために必要な能力や態度を育成します。

さらに、学んだ知識をより確かなものとするために、職業に関して専門的知識や技能をもつ民間人等を活用した授業、奉仕活動や職場体験などの実体験の機会を拡充します。

また、各学校が組織的・系統的にキャリア教育を推進できるようにするため、小・中・高校の発達段階に応じた一貫性のある学習プログラムを開発し、普及していきます。

［ 推進の柱となる事業 ］

・地域の人材活用の推進　　・職場体験の推進

・ジュニア・キャリアアドバイザー事業

・勤労観・職業観を育成する学習プログラムの開発・普及

（２）進路指導の充実

自分の意志と責任で、進路を選択・決定する能力や態度を身に付けさせます

各教科における学習指導や総合的な学習の時間、特別活動などの教育活動全体を通じて、生徒が自らの在り方生き方を考え、主体的に進路を選択し、その目標に向かって努力していけるよう、各学校においては、本人や保護者に対するガイダンス機能の充実を図るとともに、職場体験の機会の確保や企業訪問、上級学校訪問などを実施し、生徒の進路意識を啓発します。

また、教職員全体の共通理解と協力体制により、計画的・組織的に進路指導を行うだけでなく、中・高の連携を密にし、連続性・一貫性のある進路指導の充実を目指します。

［ 推進の柱となる事業 ］

・中・高進路指導連絡協議会　　・県立高校ガイダンス事業
・進路指導連絡協議会

（３）社会性を育てる指導の充実

社会生活を営む上での基礎を身に付けさせます

社会性は集団生活の中で育てられます。したがって、集団活動の場で自分の役割や責任を果たす、互いのよさを認め合う、他者と協力して集団に関わる諸問題を話し合う、集団のためになる最良の解決策について思考判断するといった活動を重視します。特に、学級活動（ホームルーム活動）などにおける集団決定の場面や、学校行事や生徒会活動などにおける、集団（同学年・異学年）内での役割や責任を果たす場面の指導を大切にし、一人一人が集団に所属することのよさを実感できるようにします。

また、社会体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動の一層の充実を図り、あいさつや礼儀作法など社会の一員としての基本となることや共に生きる心、感謝の心などを育むとともに、主体的に自己の在り方や生き方を見つめさせます。

さらに、学校教育の様々な機会を通して、お互いの考えや気持ちを伝え合う力を高め、生活上における問題を言葉で解決する力を育てるとともに、児童生徒が相互理解や望ましい人間関係づくりを進めるためのカリキュラム等の在り方について調査研究を行い、その研究の成果を県内全域に普及・啓発します。

［ 推進の柱となる事業 ］

・伝え合う力を養う調査研究
・キャリア教育実践プロジェクト事業（キャリア・スタート・ウィーク）

キャリア教育の視点を生かした
進路指導の工夫・改善に関する参考資料

－ 生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために －

【 中学校・高等学校編 】

発　行　　平成18年3月
栃木県総合教育センター　研究調査部
〒320-0002　栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204　　FAX 028-665-7303